

日本消防



口 絵 日本消防協会 東日本大震災現地調査（宮城県）	H23.7.5（火）～6（水）	於 石巻市	
片山総務大臣「おはよう！ニッポン全国消防団」出演			
平成23年春の叙勲伝達式（消防関係）	H23.6.28（火）	於 ニッショーホール	
平成23年春の褒賞伝達式（消防関係）	H23.6.29（水）	於 都市センターホテル	
巻頭言 「地域の安全・安心」と「海の守り」……………財団法人 福岡県消防協会 会長 岡部 秀年 ……1			
東日本大震災災害活動報告 3.11を心に刻み巨理町消防団は復興を誓います			
……………宮城県巨理町消防団 団長 森 義里 ……3			
東日本大震災災害活動報告 ……福島県富岡町消防団 団長 安藤 治 ……5			
東日本大震災災害活動報告 ……岩手県釜石市消防団 団長 和田 松男 ……7			
東日本大震災災害活動報告 ……千葉県旭市消防団 団長 木内 欽市 ……9			
実戦消防操法による「消防団競練会」の実施 ……岐阜県美濃加茂市消防団 団長 尾石 文雄 ……11			
特別表彰「まとい」を受章して「09年集中豪雨 命がけの救助活動に評価」			
……………山口県防府市消防団 団長 原田 幸男 ……14			
平成23年春の叙勲伝達式・褒章伝達式……………総務省消防庁 ……16			
住警器Now! ～第 11 回・最終回～			
婦人（女性）防火クラブによる地区全体世帯への設置促進（愛媛県伊予市）…総務省消防庁 予防課 ……33			
東西南北（群馬県）「自分たちの地域は自分たちで守る」を合い言葉に			
……………嬬恋消防団 団長 下谷 宇一 ……36			
東西南北（長野県）「未来に ^{つむ} ぐ上田消防の「火消し魂」」……………上田市消防団 団長 和田 道明 ……38			
東西南北（青森県）「笑顔あふれるわが町を守る消防団」……………おいらせ町消防団 団長 立花 國雄 ……40			
東西南北（茨城県）「工都「日立」の安全・安心のために」……………日立市消防団 団長 今橋 松男 ……42			
シンフォニー（福島県）「私たち女性団員だから出来る事を一歩ずつ…」			
……………会津若松市消防団 団員 坂内 牧子 ……44			
頑張れ！少年消防クラブ（兵庫県）「防火救命活動の担い手」			
……………たつの市消防本部警防課 消防司令 桑名 一博 ……46			
頑張れ！少年消防クラブ（東京都）「区総合防災訓練に参加」…豊島消防少年団 団長 小島 二郎 ……47			
9月1日は防災の日 防災訓練に参加しましょう～災害に備え、防災知識の向上をめざす～			
……………応急対策室 ……48			
映画「ふるさとがえり」 ニッポン中へ届けよう！～全国の消防団員・団員のご家族へ捧げる物語～…50			
うちの名物団員 ……52			
消防団の広場（三重県）「地域の防災意識の向上に向けて」			
……………津市消防団芸濃方面団 ささゆり分団 分団長 松谷 トシ子 ……54			

編集後記

表紙写真説明

昨年8月1日（日）に塩尻市で「長野県消防ポンプ操法・消防ラッパ吹奏大会」を開催しました。また、消防団のイメージアップなどを目的とした「消防団ラッパ隊広域交流会」を当大会に併せて、開催しました。大勢の来場者が見守る中、岐阜県恵那市、安曇野市、木島平村消防団ラッパ隊から、日ごろから練習している曲を、また、諏訪消防協会からは、諏訪大社御柱祭で木遣りと共に御柱を曳行した諏訪地区6市町村のラッパ隊100名の吹奏が披露し、その迫力に交流会は大いに盛り上がりました。

日本消防協会 東日本大震災現地調査(宮城県)

平成23年7月5日(火)～6日(水)



(日本消防協会 高木会長、副会長、地震等防災対策委員 被災地視察)

片山総務大臣ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演



平成23年春の叙勲伝達式（消防関係）

平成23年6月28日（火） 於 ニッショーホール



平成23年春の褒賞伝達式（消防関係）

平成23年6月29日（水） 於 都市センターホテル



「地域の安全・安心」と「海の守り」

財団法人 福岡県消防協会 会長 岡部 秀年



この度の東日本大震災に際し、被災された各県に対しお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災の様相が明らかになるにつれ、今回まで消防団員としての崇高な使命を改めて感じたことはありません。自ら被災しているにもかかわらず、強い使命感の下、水門閉鎖や避難誘導を行う過程で、津波に巻き込まれ、多数の殉職者を出したという事実は消えないのであり、痛惜の念に堪えません。この震災から立ち直り、1日も早い復興を望みます。

今回の大震災から、消防の使命と殉職者を出さないということを指導者としての立場から、研修会等を通じて学ぶと同時に将来の防災活動の貴重な教訓としなければならないと思うのです。

福岡県にありまして、平成17年には西方沖大地震が発生するなどその対応に迫られたことが昨日のように思い出されるところです。

さて、福岡県は、九州本島の北部に位置し、九州地方の県では最も人口が多く507万人を抱え、九州地方の経済・文化・交通の中心地であり、更に、福岡市と北九州市の二つの政令都市を持つ、いわゆる三大都市圏以外では唯一人口密度が1000人/km²を

超えているなど、繁華な県です。

また、九州の玄関口としてアジアとの交流や本州との連結場所としての機能県として果たすべき役割は極めて大きなところでもあります。

そして、福岡市や北九州市などを中心として福岡、北九州、筑後、筑豊のそれぞれ特色の大きく違う四つの地区が所在しています。

こうした県の中に、77消防団、2万5,000人余の消防団員を抱え、郷土愛護の精神の下、一致団結して町の安全・安心に努めているところです。

この中で、消防団としては特異な機能を持つのが我が洞海湾消防団です。

戦前は、保安組合の名称で同組合と日本水難救済会若松救難所が、洞海湾一帯の火災水難等による人命、船舶積荷の救済、海上産業の発展と海上交通安全の確保を目的に活動していましたが、太平洋戦争の勃発によって水上警防団に編成替えしたため、二団体は併合されました。

戦後、警防団改組の米軍覚書に従って、当時の若松、戸畑、八幡の三市の共同運営として三市と三市消防署の直接管理の下に洞海湾消防団を組織し、三市議会に組織案を提出、昭和22年9月に可決され、協議の結果、若松市で常時運営されることになり

ました。と同時に初代団長として岡部宏輔氏が就任、昭和56年11月に第二代として私が就任し現在に至っています。

組織編成としては、1本部4個分団、定員90名で組織され、洞海湾沿岸に事業所を置く企業12社の社員で構成し、本部は第一港運株式会社に置き、企業所有（矢野海運株、洞海マリンシステムズ株、製鉄曳船株）の消防艇（タグボート）8艇を北九州市が借り上げ、北九州市洞海湾を中心に北九州沿岸一帯の船舶火災等の消火活動、警戒パトロール等による災害防止活動を実施しています。

各企業とも非常に協力的で、消防協力団事業所表示証を掲げ、災害や有事の際の出動はもとより、防災活動や定例訓練等積極的に参加していただいています。

船舶火災は、めったに起こることはありませんが、過去の事例中で最も大きな活動は、昭和62年にトロール船の火災が発生し、数日間に亘り数隻の消防艇を交代で出動させ消火活動を行いました。この際、注意を要するのは、船舶をまず沖合に出して消火

しますが、放水しすぎて船を海中に沈めないように慎重にかつ大胆に消火活動を行わなければなりません。この消火活動に当たっては、海上保安庁と協力して行いますが、その様子が写真に撮っており、両端の船が我が消防団の消防艇です。また、北九州市出初式にも出動させ、海上パレードや海上放水を実施し、陸上の消防車両とは異なった設備を披露しています。

こうした活動を披露することにより、企業の協力を求めることも可能であり、団員の確保にも効果のあるところです。

折から、福岡県全体としても、消防団員の確保は喫緊の課題であり、そのために、消防団員加入促進のためのDVDの作成やケーブルテレビによる広報に努めるなど、あらゆる機会を捉え、県民に消防団に対する理解と協力を求める活動を行っているところです。

今後も地域の安全安心の要である消防団を積極的にPRするとともに、協会として出来得る限りの支援に努めて参りたいと考えております。

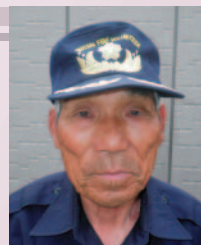


洞海湾消防団

東日本大震災災害活動報告

3.11を心に刻み亶理町消防団は復興を誓います

宮城県亶理町消防団 団長 森 義里



東日本大震災は、一瞬にして亶理町民の平穏な生活、そして多くの尊い命を奪い去りました。

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0、震度6弱の地震が発生し、宮城県沿岸に大津波警報が発令され、亶理町では沿岸部に避難指示が出されました。

我々消防団は近い将来発生すると予測されていた宮城県沖地震に備え、震度4以上の地震が発生した場合は自動的に出動し、各分団長の指示により住民の避難誘導の任務につくことと定めておりました。

この避難誘導については、毎年6月に亶理町総合防災訓練を実施していたこともあり、消防団員は自主防災組織の一時避難誘導場所や保育所、児童館などから、それぞれの役割ごとに町の避難所への誘導をいたしました。しかしながら、このたびの大津波は消防団員も予想できないほどの大きさと勢いで襲い掛かってきました。



(避難誘導後流出した積載車)

死亡者255名、行方不明者7名、全壊家屋2,359棟、浸水面積約35km²(町全体の47.8%)、消防ポンプ車2台、小型ポンプ積載車14台、詰所の全壊9箇所、殉職者1名(6月21日現在)と過去にない甚大なる被害となったのです。

大津波後の消防団員の活動は大変過酷なものとなりました。まず、地域住民を誘導した、荒浜小学校、荒浜中学校、荒浜支所、長瀨小学校、農村

環境改善センターが津波浸水により孤立してしまったことにより、沿岸地域の団員は避難民と一緒に、真っ黒な海水と流出した家屋や大木、漁船などに囲まれ身動きがとれず救出を待たなければならない状況となりました。

震災当日は大変寒く、停電に断水、救助のため濡れたままの活動服や法被のまま住民の安全確保を第一に3日間避難民とともに過ごした団員もいます。今思うと消防団員としての責任がそんな行動になって表れたのだと思われます。



(荒浜地区の航空写真)

震災翌日からの救助活動は、自分たちの町とは思えないほど見るも無残となった光景、2階から聞こえる救助を求める声。がれきが覆い重なる道路、そして針金や釘、ガラスなどが沈む海水に2次被害の恐れから近づけないもどかしさ。自宅は全壊、家族とも連絡の取れないまま活動する団員。その活動は想像を絶するものであり、本来であれば東北一の生産量を誇る「いちご」の出荷の最盛期を迎える時期からの急転直下でした。

孤立した避難所からの救助もまた困難なもので、すべての移動が終了したのは震災3日目のことでした。消防団員が舟やトラックなどを駆使して寝たきりや足の不自由な老人などを含む約800名の避難民を、凍るような冷たさの海水に浸かりながら無事に搬送しました。

また、本町は今回の震災で役場庁舎が甚大な被害を受けました。本来ならば災害対策本部を設置



(流出した出荷用のイチゴ箱)

する場所が機能しない非常事態となりました。町職員は外に TENT を張り、発電機と投光器で明かりをとり、通信手段の電話はまったく機能しない陸の孤島状態。消防団員も連絡調整は口頭でするしかありません。衛星電話が届くが、正確な情報は入らず、現場からヘリで何人も住民が搬送されているようではあるが、行き先がはっきりわからないような状態。そして、まったく予想していなかったガソリン不足。緊急車両以外はガソリンが入れさせられず、町には住民から苦情が殺到しておりました。我々消防団も積載車やポンプ車の半数近くが津波により流出したため、自家用車を使用して捜索活動をせざるを得ないが、ガソリンを入れるのも回りに気を使い緊急車両と一緒に給油するような状況でした。



(捜索前の現地本部での作戦会議)

そして、震災から 2 週間は、あっという間に過ぎていったように感じられましたが、何がどうなっているのかさっぱりわからないというのが本当のところ。地震発生後、活動服に着替え出勤し、その後自宅が流され帰ることもできず、身に着けるものは消防団の活動服に長靴だけ、捜索活動のため避難所から捜索現場に向かい、夜は断水のため風呂にも入れず、夕食後寝るだけという生活の日々。それから約 2 ヶ月にも及ぶ行方不明者の捜索活動は、これまで体験したこともないこと

ばかりでした。毎日、遺体を発見しては確認し、警察や自衛隊に報告するという作業。何十体もの遺体が搬送される日もありました。



(がれきの中での捜索活動)

しかし、この様などん底の状況で私達を力強く支援していただいたのが、愛知県緊急消防援助隊と陸上自衛隊第 10 師団の皆様方でした。まったく知らない土地に来て、地元消防団員と一緒に捜索していただいたこのご恩は言葉には表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。



(愛知県緊急消防援助隊解散式)

現在、3 ヶ月が過ぎ行方不明者も減少しております。がれきの山に田植えのしていない田んぼ、陸に上がったままの漁船。枯れ果てたいちご畑。

しかし、職を失った消防団員も何とか就職し、がんばっております。町外に移り住んだ団員もいます。しかし、故郷の復旧・復興はみなが願うことです。元のように農業がしたい。元のように漁業がしたい。元のように電車で通勤したい。そして、元の場所に住みたい。そんな素朴なことでも、今の私たちにはとてつもない夢となっているのです。互理町消防団員は現在バラバラかもしれませんが、～ONE FOR ALL・ALL FOR OEN～「一人はみんなのために、みんなは一人のために」故郷 互理町、そして互理町消防団の復興のためともに力をあわせてがんばって行きたいと心に誓っております。

全国からご支援いただき大変ありがとうございます。

東日本大震災災害活動報告

福島県富岡町消防団 団長 安藤 治



平成22年度中、私は消防団を対象とした地震津波災害に関する研修に2回参加した。(静岡県防災センター等・宮城県気仙沼消防本部等)

この時、研修で見聞きしてきたことと同様なことが半年後に自分たちの地域で起こるとは、誰一人として想像できなかったであろう。しかしながら、3月11日午後2時46分に現実のものとなった。

震災直後、町内至るところに生じた亀裂や陥没により道路網は寸断され、水道・電気のライフラインも止まり、通信手段すら失った。その様な中、消防団は約30分後に到達すると予想された津波に備え、全団出動をかけ警戒・避難誘導を行ったが、混乱から立て直す間もなく大津波が町を襲い、家や車を破壊しながら飲み込んでいった。その中には、人もいた。津波が運んだ瓦礫や恐怖は、救出に向かう我々の行く手を阻んだ。無念さと申し訳なさが団員の心を責めた。

さらに追い討ちをかけるように、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故が発生した。原子力発電所の「安全神話」を信じていた者にとっては裏切られた思いとなった。

また、原発の「安全神話」はその後の事故対策にも影響を与えた様に思う。「安全神話」の上に立った東京電力(株)の企業体質も事故後の対応にも大きな影を落としているようにも思える。

一方住民は、プライバシーの無い避難所生活に身も心も疲れ果てている。

そして、未だ将来の見当も示されない状況の中、先々のことを考えることが出来ず、思考停止状態で暗い日々を送っている。

今回、活動状況報告の提出依頼を受けたが、暗い気持ちで筆が進まないでいる。よって、これまでの活動の記録を時系列的に控えたものを報告としたい。

3月11日(金)

14時46分 地震発生

15時00分 富岡町災害対策本部設置・消防団幹部召集



海岸沿いの屯所に配備されていた可搬ポンプ積載車両

- 15時05分 消防団全団出動
- 15時30分 大津波到達
- 16時19分 各分団より地域の現状報告を受ける
- 16時30分 ため池決壊を警戒し一部地区に避難指示
- 18時40分 婦人消防隊へ炊き出し要請(消防団もこれに加わる)
- 20時04分 地震・津波による町内避難所への避難者総数2,000～2,500人と報告入る
- 22時35分 福島第一・第二原発の状況により防災無線にて10km圏内屋内退避命令
- 22時47分 再度防災無線にて広報実施

3月12日(土)

- 5時45分 福島第一原発から10km圏内立入禁止
- 6時16分 町内各避難所から川内村、都路村へ



3月11日深夜 電気水道が無い中炊き出しを行う消防団員



遺体捜索を行っての消防署員

避難開始

- 6時30分 消防団総員を災害対策本部に招集し、町職員と共に担当地区を指定
- 6時45分 避難場所を川内村とする
- 7時10分 各分団による担当地区での避難広報活動の実施
- 8時16分 改めて、避難場所を川内村とする
- 8時59分 東京電力(株)、国の指示によりペントする
- 14時36分 避難指示
- 15時36分 福島第一原子力発電所で水素爆発
- 17時30分頃 町民全員避難の報告を受け、町災害対策本部も川内村へ移動

3月16日～

川内村から郡山市にあるビッグパレットふくしまへ避難。

消防団は避難所の警備、物資の搬送等を行ないながら現在に至る。

今回の震災及び原子力災害を通し消防団活動を振り返った時、改善点は多々あったと思う。そのひとつに挙げられるのは、消防団として緊急で未経験な災害に対応するための知識の蓄積が足りなかった事により、一組織で解決出来るもの、出来



3月16日 川内村よりビッグパレットに避難するのに合わせて物資を積み込む消防団員

ないものの区別が出来ていなかった点。これは組織運営者として反省をしている。今後は今回の反省点を生かし運営にあたりたい。

しかし、改善点が多いながらも、困難に直面した場合においても積極的に活動している若い団員の発想力の高さや広がりを見出したとき、将来への光を見つけた思いをしている。

富岡町消防団は、これまでの避難所支援活動から、郡山市・三春町・大玉村の仮設住宅へ移動された町民への防災対応に移ろうとしている。

先日は、三春町、葛尾村、富岡町、3町村の団長、副団長、担当課長、係の合同会議を開いた。また、大玉村との会議も予定されている。郡山市消防団とは地区隊の団員との交流も進んでいる。

我々を動かしているのは消防人としての使命感と応援や声をかけてくださる町民の皆さん、そして活動を支えていただいている町当局のご尽力が大であります。今は、避難所生活を一日でも早く終え、町へ戻り、団員そろって復興の礎としてお手伝いできることを願っています。

終わりに、今回の災害で避難所を提供していただいた行政の皆様、慰安や炊き出しに来てくださいましたボランティアの皆様、そのほか様々な温かいご支援をいただいた全国の皆様に、誌上をお借りしまして心から御礼申し上げます。



津波に飲まれた富岡駅（写真左側より津波襲来）



富岡町駅前（写真奥より奥より津波襲来）

東日本大震災災害活動報告

岩手県釜石市消防団 団長 和田 松男



1 管内被害状況

平成23年3月11日（金）午後2時46分、被災地域に住む住民には忘れることのできない日となりました。我が街、釜石市は震度6弱の地震で、今まで経験してきた地震とは違い、激しい横揺れが数分間続き、長く揺れている中で誰もが「宮城県沖地震」のことが頭の中を過ぎったのではないのでしょうか。揺れが収まり、それから数十分後、想像を越える大津波が沿岸部全ての建築物等をのみこんで、住民の生活も何もかも流してしまいました。

6月21日現在での当市の被災状況は、死者876人（うち身元不明128人）、行方不明者369人、被災家屋3,723戸、最大避難者数8,939人、消防団の被災は、団員798人中、死者11人、行方不明者3人、消防屯所等43棟のうち全壊18棟、消防車両41台のうち9台を流出損壊しました。

当市の地域防災計画では、津波予報が発表された場合及び震度4以上の地震が発生した場合、消防団員は直ちに水門を閉鎖することが定められており、水門閉鎖は、人力及び遠隔操作等で閉鎖しました。

津波は、昭和53年から工事が始まり28年の歳月をかけて釜石港入口に建設された湾口防波堤も破壊してしまい、また、水門の閉ざされた防潮堤も軽々と越えて破壊してしまいました。



市内の被災状況



住宅等押し流す津波



破壊された町並み

死亡、行方不明の団員は、水門閉鎖活動中や避難誘導中に津波に巻き込まれてしまったものと思われます。

2 活動内容

消防団員は、地震発生直後には所属消防屯所に参集し、管轄区域の警戒巡視や被害情報の収集を実施しました。また、大津波警報発令に伴い沿岸部の各部は、住民への避難広報や避難誘導を行ないました。

津波発生後も高齢者や身体の不自由な住民を避難させるために何度も被災現場に向かいました。

消防団員は大きな余震が発生するなか、被害の大きな沿岸部で浸水し孤立した住民の救出活動や

避難誘導、支援物資の搬送の活動を行ないました。

夜が明けると津波被害が想像以上に悲惨で大きく、これからの対応が困難で大変なことを痛感しました。

増え続ける死者、行方不明者の情報。活動中の団員の中にも家族が死亡した者、行方不明者がいる者、自宅が全壊した者もあり、そんな現場で団員同士が協力し合い、行方不明者の搜索活動を行ないました。この搜索活動で多数の行方不明者が遺体で収容され、その中には不明の消防団員も遺体で発見されて辛い思いも経験しました。

行方不明者の搜索活動とともに、見つかった遺体の遺体安置所への搬送、当市の火葬場での遺体火葬に間に合わないことから、県外の火葬場への遺体搬送も行ないました。また、夜間は避難所の警戒及び管轄区域内の夜警を行ない治安維持に努めました。

3 団長からのメッセージ

本年3月に発生した大地震は、当市に甚大な被害をもたらしました。

この地震により発生した大津波が東日本沿岸部を襲い、大槌湾、両石湾、釜石湾、唐丹湾に面する地域は、壊滅的な被害を受けました。

この地震によりお亡くなりになられた方や、未だに行方の分からない方は1,200名余りとなり、800名を超える方々が避難生活を余儀なくされております。

また、水門閉鎖や市民の避難誘導に従事し、犠牲となった消防団員は11名となり、未だに3名の団員が行方不明のままとなっており、筆舌に尽くしがたい大惨事となりました。

地震発生より現在に至るまで、自衛隊をはじめ、緊急消防援助隊、警察隊や海上保安庁、災害派遣医療チーム、さらには全国の地方自治体、民間企業、団体、個人など多くのご支援を賜りました。

ご支援をいただきました国内外の皆様に、改め



津波により流出した消防屯所（赤線囲み内）



被災した消防屯所の内部



津波により被災した消防団車両



避難所生活する住民の方々

て衷心より御礼を申し上げる次第であります。

おかげさまで、復興に向けて市民一丸となって歩み始めておりますが、抱える課題が山積し、前途にさまざまな試練が待ち受けていると思います。

今後とも皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災災害活動報告

千葉県旭市消防団 団長 木内 欽市



2011年3月11日14時46分、三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、震源地から遠く離れた千葉県旭市も震度5強の揺れを観測した。

三陸沖から太平洋沿岸一帯に津波警報が発令されていたが、まもなくして大津波警報に変わった。旭市は津波警報のままだった。

そのうちテレビ画面には信じられないような光景が映し出された。建物や農業用ハウスなどが次々と津波に呑み込まれてゆく。

その後、旭市も大津波警報に変わったがこの時点での被害は報告されていなかった。

テレビでは、「第2波以降に、強い津波が来る場合がありますので充分注意してください。」と呼びかけていた。

この地域には、300年以上前の元禄地震の時に津波の被害があったと聞いていたが、九十九里浜は遠浅の海岸線のため、リアス式海岸の三陸地方に比べて危険性は少ないと聞いていたのでさほど心配はしていなかった。

その後、市役所に災害対策本部が設置され、17時30分に消防本部へ駆け付けた後、しばらくして胸まで海水に濡れた団員が青ざめた顔で入ってきた。「凄い状態になっています。津波に流された老人ホームの車の中に車椅子に乗ったお年寄りがいたので救助してきました。」と報告を受けた。その後団員達は一軒一軒住民の安否を確認し

て回った。その際、民家2階で逃げ遅れた老夫婦を救助したとの報告があった。

15時50分に大津波が襲来した際には、避難を呼びかけていた消防署のタンク車が津波に飲み込まれ、幸いにも隊員は軽傷程度で済んだ模様であったと聞いていたが、東北地方を襲った大津波が到達してから、2時間半後の襲来であったことに、私は驚きを隠せなかった。



飯岡津波第一波（15：47）



飯岡津波第一波（15：50）



飯岡津波第二波（17：20）



飯岡漁港の漁船

深夜には、一番被害の大きかった飯岡地区で郵便局２階に一時避難していた20人余りの高齢者を避難所へ移送するため、歩けない高齢者を一人ひとりおぶって避難用のバスに乗せ海上地区の避難所へ送り届けた。

また、海上中学校体育館には、一時500人が避難しており、トイレの数が少ない上に断水が重なった。紙オムツがほしいという声で窮状に気付き、急遽ポンプ操法用の水槽を用意し各避難所へ断水から復旧するまでポンプ車を配備する部隊が給水が続けた。

震災翌日からは、行方不明者の搜索、幹線道路の瓦礫撤去、交通整理、飲料水の配給に従事した。

また、団員が自ら米を提供し、団員への炊き出し及び一部避難所への炊き出しなど自主的な行動を続けた。

いまだに余震が続く中、瓦礫集積場の見回り、散水、及び火災警戒パトロール等を行っている。

今後、千葉県東方沖を震源とする、大地震はいつ発生してもおかしくない状況ですが、「自分達の地域は自分達で守る」という郷土愛護の精神と「人の為に尽くして、見返りを求めない」という崇高な消防精神を堅持しつつ、団員一人ひとりが有事の対応を考えていかなければならないと思っている。

今回の消防団の活動に対し、千葉県消防協会石橋会長をはじめとして、多くの消防団が激励に訪れて頂いたり、近隣消防団からは団員派遣の申し出もあり、同じ防災の任にあたる「消防人、消防団」の絆の深さを実感していると同時に大変感謝しているところである。



旭市市内の地震被害



活動する消防団員

実戦消防操法による 「消防団競練会」の実施

岐阜県美濃加茂市消防団 団長 尾石 文雄



1 はじめに

美濃加茂市は岐阜県の南部に位置し、面積は74.81km²であり、北は飛騨や奥美濃の山並みに面し、南は木曽川沿いの肥沃な低地である濃尾平野に面しています。

交通面では、市の南部にある美濃太田駅にJR高山本線、太多線と長良川鉄道が乗り入れており、また、道路については、国道21号、国道41号、国道248号、国道418号などが走り、さらに平成17年3月に東海環状自動車道美濃加茂インターチェンジが開設され、広域的にも利便性の高い地域となっています。

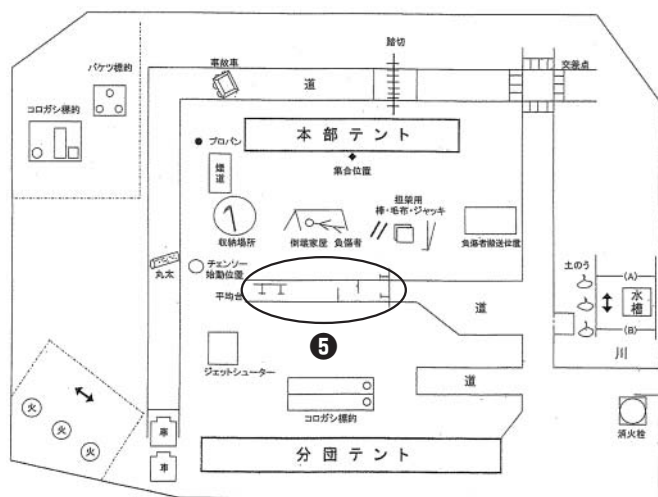
美濃加茂市には、平成記念公園日本昭和

村や、日本ライン下り、山之上観光果樹園などの魅力ある観光資源が多くあり、特産品として高級銘菓の堂上蜂屋柿、山之上的果実、歴史資源としては、中山道太田宿、正眼寺、瑞林寺、小山観音、古井の天狗山などがあります。

美濃加茂市の総人口は、約5万5千人で、昭和29年の市制施行以来、継続して増加しています。

この地域の消防防災を担う本市消防団は、条例で定められた団員数293名を欠員することなく、消防ポンプ自動車及び小型ポンプを配備した7つの分団が常備消防と連携して災害対応に当たっています。

美濃加茂市消防団競練会実施詳細図



競練会使用資機材一覧表

◇筒先 ◇ホース ◇とび ◇移動系無線機 ◇チェーンソー ◇ジェットシューター
◇ウォーターチャージャー ◇ハイジャッキ ◇バール ◇棒(担架用) ◇毛布(担架用)
◇土のう ◇双口接手 ◇地下式消火栓ハンドル ◇消火器 ◇ビニール袋

統一事項

- ① 総指揮者は、本部の「出動」指令後1号車を出動させ、車道にある丸太を切断除去して通過し、事故車を移動させ、現場到着後、1号車の指揮者は無線で、2号車を出動させて双方協力し、標的を落とす。
- ② 1・2号車は、ポンプ車、積載車どちらでもよい。
- ③ 1号車の乗車人員は、4名以内とする。
- ④ チェーンソーは、競技前に始動位置に置き競技を開始する。
- ⑤ 水槽からの消火活動及び救護班は、障害物を通過すること。(詳細図⑤)
- ⑥ 救護班は、煙道を通過するときビニール袋を使用すること(煙の吸引を防ぐ)。
- ⑦ ウォーターチャージャーは、車に乗せること。
- ⑧ 川の流れを考慮して土のうを積むこと。
- ⑨ 風の向きに注意して火点をたおすこと(延焼防止)
- ⑩ ポンプの機関員は当日指名する。

<注>各分団消火器を1本用意すること。

2 消防団競練会について

本市消防団では、毎年6月に、実際の災害現場での消防活動に直結する想定のもと、訓練形式を盛り込んだ実戦操法を行っており、7つの分団でその得点を競い合う「消防団競練会」を実施しています。

この競練会は今年で32回目となり、火災や災害が多く、実戦的な消防操法を行うことで、災害対応力を高めようとはじめられました。

各分団が競い合うこと、審査員から操作の確実性や危険防止の適切さなどを採点されること、さらには操法を通じて災害現場での活動に備えての基礎的な消防活動の技術を学ぶことなど、消防団競練会は消防ポンプ操法大会と共通する要素をたくさん持っています。しかし、行われる実戦操法と消防ポンプ操法には大きな相違点があります。消防ポンプ操法は標的と水利の間の直線的な動きに終始しますが、実戦操法はグラウンド全体を使った複雑な動きになります。

グラウンドには、入場門から標的の火点までを2本のロープが腰の高さの位置で平行に張りめぐらされ、この2本のロープの間が、車道や交差点、あるいは消防車両が通行できない路地を意味し、実戦操法の競技フィールドとなります。

選手は消防車両で入場し、フィールド内に設置された水槽や消火栓を水利に、ホースを中継延長し、様々な「標的」に向かって放水を行います。

障害物の種類や位置等の想定は毎年、微妙に変更され、また、選手もあらかじめ知



コロガシ標的



バケツ標的

ることなく、災害発生時さながら、ぶっつけ本番で臨んでいます。

実際には、まず本部テント内から総指揮者が移動系無線を使用し団員に出動準備をとらせます。準備完了後、本部テント前を出動指令と「想定書」を受け取ることから開始となります。全体的な訓練想定は地震災害を意識したのですが、ここで渡します「想定」は競練会の競技的約束も含めた内容で、それには次の5点が記されています。①風5mを想定した消火活動。②標的は、球ころがし標的・バケツ標的・操法標的・コロガシ標的・ジェットシューター標的とする。③火点北側倒壊家屋に負傷者1名あり至急救助。（心配停止。呼吸なし。脈拍確認。）④風の向き及び川の流れは矢

印にて示す。⑤放水は最小限、消火は最大の効果。

総指揮者は出動指令を受けて、直ちに車両2台が待機する入場門に駆けつけ、号令をかけて出場団員を整列させます。そして、想定伝達、車両ごとの指揮者の選任、機関員の選任を行い、隊員はそれを受けて2台の車両に分乗して出動します。進行を妨害する「丸太」や「事故車」という障害物をそれぞれチェーンソーで切り落としたり押すなどして除去したりして、河川氾濫現場へ急行します。土のうを積む団員や水利を確保しながらホースを中継延長しさまざまな標的に放水を行う団員、模擬倒壊家屋からジャッキを使い負傷者を救出し、心配蘇生を行い、担架で所定位置までの搬送を行う団員が、それぞれのフィールドを駆け巡ります。全ての活動を終えた後、集合した団員が指揮者に対し、点検報告を行い終了となります。

これらの一連の活動を、15分間という所定時間で全て終えるというのが競練会のルールとなります。他にも、筒先員の正確な放水や機関員の適切な水圧操作なども審査項目となりますが、所定時間で活動を終えることが、最もクリアするのが難しい制約となっています。

総指揮者、1号車、2号車それぞれの指揮者が、予期せぬ不具合や間違いが発生した時、その対応に臨機応変に対応することが、実際の災害現場で発揮される能力につながるものと考えています。また、消防団員として必要な基本的な技能を最も効率的に身につける手段であると考えています。

競練会はぶっつけ本番の半日の訓練です



障害物「丸太」除去



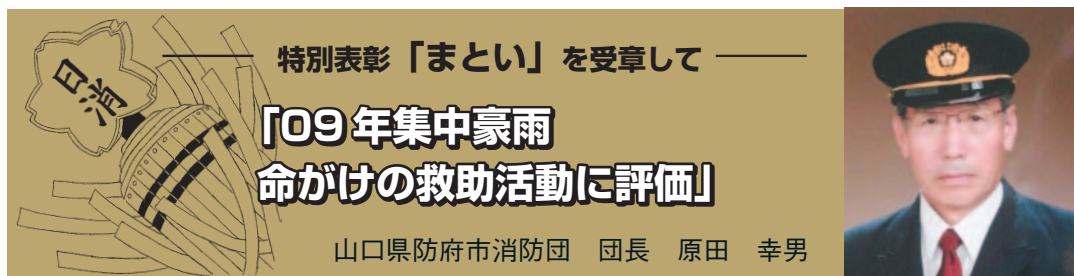
障害物「事故車」除去



倒壊家屋からの救出

が、参加した団員は災害対応に関わる技術、知識を数多く学んでいます。訓練日数を増やすことが困難な社会情勢の中で、団員の負担を軽減し、同時に消防団の活動能力を維持するには、短時間で効率よく効果的に訓練を行うことが必要であり、競練会がそのような訓練手段であると考えています。

美濃加茂市消防団としては、今後も消防団の質を維持するための努力を続けていきます。



はじめに

防府市は山口県の中央部に位置し、南は瀬戸内海に面しており、日本三大天神の一つで学問の神様といわれる、防府天満宮があります。ここで毎年11月に行われる裸坊祭は西日本屈指の荒祭りとして知られており、私達消防団は事故の無いように警備を担当しています。

過去にない大土石流発生

平成21年7月21日、防府市は過去に例のない集中豪雨に見舞われ、市内数箇所で大規模な土石流が発生、右田地区では家屋や国道を通行していた一般車両が土石流に巻き込まれました。

救助に向かっていた消防署の消防車や救急車、消防職員も押し流されたと防府市消防本部から連絡を受け、消防団員も出動し



ました。災害現場の指揮本部にて、消防職員の無事を確認後、団員を集めて「10人のグループを作れ、一人は周囲の山を見張れ。さらに音を聞き、再び土石流が発生したらどこに皆を避難させるか考えろ。」と指示を出し、「危険を承知の上で行方不明者を救助するのが我々消防団員だ！」と檄を飛ばし、全員が命がけの救助活動を開始しました。しかし土石流の現場は広範囲で、しかもどこが道路、河川、屋敷だったのか分からない。そんな中、一人の女性を土砂の中から救出しましたが、すでに体は冷たく亡くなられていました。私は消防団に入団して41年になりますが、こんな経験は過去にありませんでした。



さらに、真尾地区では老人施設の裏山で土石流が発生し老人施設を直撃、7名が死亡、4名が行方不明との連絡を受け、現場を移動して救助活動を開始。

2階建ての建物の1階屋内は土砂で埋ま

っており、関係者を説得して私の指示でガラス戸を破壊。室内の中央に1本の川ができて、その中に土砂を入れると自然に屋外に流れるようになりました。現場で指揮をする場合、まず、救助活動をする人達の安全確保が第一です。



自主防災組織を元分団長が指揮 2名の人命を救助

別の土石流現場では、半年前に退団した元分団長が、土石流で流された住宅の屋根上でタオルを振って救助を待つ男性を発見し、分団員と一緒に救助活動を実施。土砂の中を歩き、100m先の老人男性のもとに向かおうとしたが、軟弱な土砂で胸まで浸かってしまう。そこで自治会の方々を動かし、雨戸、瓦礫を運んで通路を作って救助を待つ男性のもとに到着。男性から「この家の下に私の妻がいるから助けて欲しい。」と言われましたが、いつまた土石流が発生するか分からないので「まずはあなたを救助します。」と説得し安全な場所へ移動。

再び、男性の妻を救助するため現場に戻り、「ここで土石流が発生したら俺たちは助からないな。」と言いながら屋根瓦を剥ぎ取り、危険を覚悟で天井裏に進入。胸まで泥に浸かって検索すると、奥の方で「助けてください。」と女性の声が聞こえ、暗い中を進み女性を発見。屋根上に引き上げ

て無事女性を救助しました。

この土石流災害では19人の方が亡くなり、最後の行方不明者の発見に至るまで8日間、延べ869人の団員が出動しました。



おわりに

防府市消防団は、各種災害に対応できる地域に密着した組織として市民から多くの期待を寄せられています。平成23年4月から「消防団協力事業所表示制度」を導入し、団員確保、また消防団のPR活動を行い、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

この度受章した「まとい」を防府市消防団の誇りとし、今後も消防の使命達成のために努力してまいります。

最後に、栄誉ある受章にあたり格別のご高配を賜りました消防関係各位に深く感謝申し上げます。受章のお礼とさせていただきます。

平成23年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

◇ 春の叙勲（消防関係）

平成23年6月28日（火）、ニッショーホールにおいて、平成23年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝中綬章	1名
旭日小綬章	2名
瑞宝小綬章	44名
旭日双光章	2名
瑞宝双光章	104名
瑞宝単光章	480名

◇ 春の褒章（消防関係）

平成23年6月29日（水）、都市センターホテルにおいて、平成23年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の販売業務や消防設備保守業務

等に精励するとともに業界の発展に大きく寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章	6名
黄綬褒章	4名
藍綬褒章	73名

◇ 第16回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成23年7月5日（火）、日本青年館大ホールにおいて、第16回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受賞された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した方々です。

瑞宝双光章	408名
瑞宝単光章	203名

平成23年春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 小	北 海 道	元 釧路市 消防正監	おお だき よし おき (73) 大 滝 芳 秋	瑞 単	北 海 道	元 赤平市消防団 副団長	あつ み も いち (74) 渥 美 茂 一
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	おか 明 お 男 (75) 岡 明 男	瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 分団長	いち か り きち (74) 市 川 利 吉
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	おに つか たかし (77) 猫 塚 隆	瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組合 浜中消防団 副団長	うえ だ ひで お (72) 上 田 英 朗
瑞 双	北 海 道	元 大雪消防組合東神 楽消防団 団長	おか ぎき みつ お (74) 岡 崎 光 男	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合標茶消防団 副団長	うし ぎき よし かず (76) 牛 崎 義 和
瑞 双	北 海 道	元 上川中部消防組合 上川消防団 団長	すず ぎ かい お (76) 鈴 木 和 雄	瑞 単	北 海 道	元 白老町消防団 分団長	おお うら かず お (81) 大 浦 一 夫
瑞 双	北 海 道	元 網走地区消防組合 女満別消防団 団長	ふみ た きた お (84) 富 田 定 年	瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 比布消防団 副団長	おお の しず お (74) 大 野 静 夫
瑞 双	北 海 道	元 芦別市消防団 団長	ふる た かつ し (73) 古 田 克 志	瑞 単	北 海 道	元 紋別地区消防組合 滝上消防団 副団長	おお まち むね はる (79) 大 町 宗 春
瑞 双	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合神恵内消防 団長	み うら のぶ お (79) 三 浦 信 男	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 上ノ国町消防団 副団長	あき や まさ ひろ (74) 笠 谷 政 弘
瑞 双	北 海 道	元 日高東部消防組合 様似町消防団 団長	みつ はし ひで あき (77) 三 橋 英 朗	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合羅臼消防団 分団長	かの また よし 雄 (77) 鹿 又 芳 雄
瑞 双	北 海 道	元 深川地区消防組合 秩父別消防団 団長	よし ざわ くに たろう (80) 吉 澤 國 太郎	瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合大津消防団 副団長	く じゅん かず お (76) 工 藤 和 夫
瑞 双	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻富士町第 二消防団 副団長	わた なべ しん 眞 (77) 渡 邊 真	瑞 単	北 海 道	元 池北三町行政事務 組合陸別消防団 副団長	く ぼ しょう せう (78) 久 保 省 三
瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 分団長	あお き しょう oun (72) 青 木 昌 運	瑞 単	北 海 道	元 歌志内市消防団 副団長	こ みの みつ 雄 (78) 今 野 光 雄
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合島牧消防団 分団長	きさき たかし 隆 (80) 榊	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合中標津消防団 副団長	はやし しょうじ 昭二郎 (74) 林
瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 厚真消防団 副団長	き とう かつ み (67) 佐 藤 勝 美	瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 三石消防団 副団長	はら ぐち しん じ (75) 原 口 新 治
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合黒松内消防 分団長	せい の ふみ お (79) 清 野 文 雄	瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 副分団長	ふじ かわ ち み お (75) 藤 川 智恵夫
瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合 幌加内消防団 分団長	たか き たけし 武 (79) 高 木 武	瑞 単	北 海 道	元 札幌市東消防団 分団長	ふじ むら たけ けい (84) 藤 村 忠 行
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合北斗消防団 分団長	たか だ よう いち (70) 高 田 陽 一	瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合富良野消防団 副分団長	まふ た ひろ よし (76) 暴 田 弘 義
瑞 単	北 海 道	元 北十勝消防事務組 合音更消防団 分団長	たけ だ こう みつ 悦 (76) 武 田 晃 悦	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 副団長	みや ぎき しげ まつ (78) 宮 崎 茂 松
瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合京極消防団 団長	た なか いさお 敷 (71) 田 中 勲	瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合仁 木消防団 副団長	やす ぎき まさ ひこ (74) 安 崎 正 彦
瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 団長	たん じ やす お (78) 丹 治 康 雄	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 北檜山町消防団 副団長	やま うち すずむ 進 (72) 山 内 進
瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合南富良野消防団 分団長	なが い よし お (76) 永 井 義 夫	瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合砂川消防団 副団長	よし だ こう いち (77) 吉 田 孝 一
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 愛別消防団 分団長	は せがわ きみ お (75) 長谷川 公 雄	瑞 小	青 森 県	元 青森地域広域消防 事務組合 消防正監	なか むら ひろし 浩 (70) 中 村 浩
瑞 単	北 海 道	元 札幌市東消防団 分団長	はま だ ひろし 博 (85) 濱 田 博	瑞 双	青 森 県	元 六ヶ所村消防団 団長	お け せ うの きち (71) 尾ヶ瀬 卯之吉
瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合池田消防団 副団長	はの かわ てつ じ (74) 早 川 哲 二	瑞 双	青 森 県	元 青森市浪岡消防団 団長	やま だ おん じ 治 (69) 山 田 文 治

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	青 森 県	元 板柳町消防団 団長	あ べ じゅ いち (70)	瑞 単	青 森 県	元 むつ市消防団 分団長	ふく ほん みち へい (75)
瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	いし おか よし ひろ (72)	瑞 単	青 森 県	元 金木町消防団 副団長	まつ かわ まさ せい 英 (73)
瑞 単	青 森 県	元 平賀町消防団 副団長	うち やま しげ き (77)	瑞 単	青 森 県	元 大鰐町消防団 分団長	み うら とく じ (76)
瑞 単	青 森 県	元 五戸町消防団 団長	かど はま みつ あき (71)	瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	やなぎ ほん か きち (75)
瑞 単	青 森 県	元 野辺地町消防団 分団長	かみはら こ つよし (75)	瑞 双	岩 手 県	元 川井村消防団 団長	はかま だ しょう ぞう (72)
瑞 単	青 森 県	元 脇野沢村消防団 分団長	きた かわ きみ お (73)	瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 副分団長	えん とう ひさし (83)
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	さい とう かね ひろ 廣 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 分団長	お の でん つとむ (81)
瑞 単	青 森 県	元 車力村消防団 副団長	さか もと ちよう せい 生 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副分団長	く じ せい ぶ 雄 (79)
瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	たま かわ くに お 男 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 藤沢町消防団 分団長	くま がい たかし 孝 (75)
瑞 単	青 森 県	元 平内町消防団 分団長	た 田 むら よし のぶ (75)	瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 副団長	くま がい 典 男 (74)
瑞 単	青 森 県	元 階上町消防団 団長	とら 谷 まさ み 美 (69)	瑞 単	岩 手 県	元 宮守村消防団 分団長	さ さ き たかし 正 (79)
瑞 単	青 森 県	元 天間林村消防団 分団長	はな まつ さかえ 榮 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	さ とう きやう ぞう (77)

瑞 単	岩 手 県	元 大迫町消防団 分団長	せ 瀬 がわ とも ひさ久 (82)	瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	よし かわ たかし 貴 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 分団長	たか 橋 とう じ (78)	瑞 双	宮 城 県	元 山元町消防団 団長	さい とう たか ほう 治 (75)
瑞 単	岩 手 県	元 軽米町消防団 分団長	た 田 むら いわ お 雄 (77)	瑞 単	宮 城 県	元 牡鹿町消防団 副団長	あ べ しん まつ 新 松 (81)
瑞 単	岩 手 県	元 衣川村消防団 分団長	ち 千 だ 幸 き 喜 (77)	瑞 単	宮 城 県	元 大和町消防団 副団長	お 小 川 栄 いち (75)
瑞 単	岩 手 県	元 大野村消防団 分団長	つづく いし まん じ 萬次郎 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 亘理町消防団 分団長	お 小 の けん じ 野 賢 治 (81)
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	つ 筒 じ い 十一 二 (79)	瑞 単	宮 城 県	元 中田町消防団 副団長	お の でん 栄 幸 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 大槌町消防団 分団長	とう ばい たけ やす 保 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 涌谷町消防団 分団長	か とう こう いち (77)
瑞 単	岩 手 県	元 三陸町消防団 副団長	の だ いさみ 男 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 米山町消防団 副団長	かめ い つとむ 井 傳 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 松尾村消防団 副団長	はた 畑 たもつ 保 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 多賀城市消防団 分団長	かめ やま たかし 亀 山 隆 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	まつ した さかき 柳 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 副団長	かわ むら かず き 川 村 和 喜 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 野田村消防団 副団長	やま 山 がた かつ よし 勝 義 (68)	瑞 単	宮 城 県	元 女川町消防団 副団長	き むら せい いち 木 村 征 一 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 陸前高田市消防団 分団長	よし だ ちよう しち 吉 田 長 七 (79)	瑞 単	宮 城 県	元 唐桑町消防団 分団長	さ さ き しげ お 佐 々 木 重 夫 (84)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	宮 城 県	元 北上町消防団 副団長	佐々木 正 行 (73)	瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	村上 清 一 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市青葉消防団 副団長	佐 藤 芳 郎 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 団長	目 黒 孝 良 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 村田町消防団 分団長	佐 山 常 夫 (81)	瑞 単	宮 城 県	元 白石市消防団 副団長	横 山 正 人 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	庄 司 勝 壽 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 鹿島台町消防団 副団長	渡 邊 優 一郎 (78)
瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	菅 原 信 昭 (80)	瑞 双	秋 田 県	元 横手市大雄消防団 団長	加 藤 周 一 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 宮崎町消防団 分団長	高 橋 昭 夫 (83)	瑞 双	秋 田 県	元 潟上市消防団 団長	鎌 田 健 一 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 南方町消防団 副団長	高 橋 貞 一 (76)	瑞 双	秋 田 県	元 東成瀬村消防団 団長	佐々木 清 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 岩出山町消防団 副団長	千 葉 ひさし 久 (74)	瑞 双	秋 田 県	元 稲川町消防団 団長	佐 藤 榮 介 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 築館町消防団 分団長	千 葉 富次雄 (80)	瑞 単	秋 田 県	元 藤里町消防団 団長	淡 路 龍 美 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市南消防団 副団長	早 坂 文 太郎 (84)	瑞 単	秋 田 県	元 山本町消防団 分団長	池 内 兼 信 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 亘理町消防団 副団長	半 澤 かず 一 男 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 太田町消防団 分団長	伊 藤 長 一 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 瀬峰町消防団 副団長	三 神 とおる 利 (78)	瑞 単	秋 田 県	元 本荘市消防団 分団長	大 場 たかし 孝 (77)
瑞 単	秋 田 県	元 西仙北町消防団 分団長	岡 田 たけし 健 (81)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 副団長	米 澤 みよ 三代司 (80)
瑞 単	秋 田 県	元 八郎潟町消防団 副団長	金 善一 郎 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 雄勝町消防団 副団長	渡 邊 清 一 (82)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	嵯 峨 てつ お 夫 (79)	瑞 双	山 形 県	元 酒田市松山消防団 団長	平 向 まさる 勝 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 森吉町消防団 分団長	柴 田 たよ きち 吉 (72)	瑞 単	山 形 県	元 温海町消防団 分団長	いずみ だ 忠 昭 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 大曲市消防団 副分団長	寺 村 ひら とう いち 市 (78)	瑞 単	山 形 県	元 大石田町消防団 団長	遠 藤 ぶつ お 鉄 男 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	にしむら しょう さいもん (80)	瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 分団長	こ せき いき お 閔 健 男 (69)
瑞 単	秋 田 県	元 比内町消防団 分団長	の 野 み しょう いち 俊 一 (71)	瑞 単	山 形 県	元 八幡町消防団 副団長	ご 藤 みのる 實 (70)
瑞 単	秋 田 県	元 神岡町消防団 副団長	ふじ 井 せい さく 盛 作 (76)	瑞 単	山 形 県	元 羽黒町消防団 団長	き 藤 たく じ 二 (65)
瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 分団長	ふた ぎ かづ 桂 (81)	瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 分団長	すず 木 きぶ みう 鈴 木 三 郎 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 大内町消防団 分団長	ほり 堀 きよ し 志 (79)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 副団長	たか はし いち ろう 高 橋 一 郎 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 小坂町消防団 団長	ほん だ りめう じ 爾 (77)	瑞 単	山 形 県	元 藤島町消防団 団長	よこ た かつ とし 横 田 勝 敏 (67)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	み 三 うの とし お 三 浦 利 男 (79)	瑞 小	福 島 県	元 会津若松地方広域 市町村圏整備組合 消防正監	かわ しま ひとし 川 島 仁 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	福 島 県	元 新地町消防団 団長	あ べ ふう じゅう 重 (76)	瑞 単	福 島 県	元 喜多方市喜多方消防団 副団長	き とう ふう 豊 (69)
瑞 双	福 島 県	元 南相馬市消防団 団長	し げ たい ひと 彦 (72)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	しば き しょう ぞう 三 (83)
瑞 双	福 島 県	元 大熊町消防団 団長	むら かみ ひで よし 義 (66)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	すず き たか なが 長 (79)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	いし じょう いち 一 (79)	瑞 単	福 島 県	元 伊南村消防団 分団長	ひら の まなお 學 (75)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	い とう てる いち 一 (66)	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	ふる かわ ひかる 恭 (76)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	うめ つ ぜん いち 一 (77)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	まの め わたる 彌 (78)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	おお き よし ただ 忠 (76)	瑞 単	福 島 県	元 都路村消防団 団長	よし た よし し 義四郎 (66)
瑞 単	福 島 県	元 塩川町消防団 分団長	おお にし ゆき お 雄 (78)	瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 副団長	わた なべ あき よし 渡 部 昭 善 (69)
瑞 単	福 島 県	元 西会津町消防団 分団長	かね こ かず お 男 (78)	瑞 小	茨 城 県	元 筑西広城市町村圏事務組合 消防正監	うち た しょう じ 治 (70)
瑞 単	福 島 県	元 小野町消防団 分団長	かめ おか けん じ 二 (80)	瑞 小	茨 城 県	元 鹿島南部地区消防事務組合 消防正監	すの うち のぶ 夫 (70)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	かん の ふし お 雄 (76)	瑞 双	茨 城 県	元 下妻市消防団 団長	あわ の しげる 栗 野 茂 (73)
瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 団長	くち き まさ へ 衛 (70)	瑞 双	茨 城 県	元 つくば市消防団 副団長	い い むら かつ 夫 (79)
瑞 双	茨 城 県	元 取手市消防団 団長	よ へはら いさお 功 (73)	瑞 双	栃 木 県	元 日光市今市消防団 団長	きた やま とし 男 (70)
瑞 双	茨 城 県	元 つくば市消防団 団長	おお つか てる 光 (78)	瑞 単	栃 木 県	元 足利市消防団 分団長	おお かわ まさ お 大 川 正 男 (72)
瑞 双	茨 城 県	元 常陸大宮市消防団 団長	お だ くら かず お 小 田 倉 和 男 (74)	瑞 単	栃 木 県	元 小川町消防団 団長	すぎ もと ます み 杉 本 益 三 (75)
瑞 双	茨 城 県	元 桜川市消防団 団長	しろ かわ ひろし 白 川 宏 (65)	瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	ふじ ねま ふさ いち 藤 沼 房 一 (78)
瑞 単	茨 城 県	元 水府村消防団 団長	いし かわ らち ひさ 石 川 友 久 (77)	瑞 単	栃 木 県	元 小山市消防団 分団長	まつ しま しず お 松 島 静 男 (72)
瑞 単	茨 城 県	元 ひたちなか市消防団 分団長	うめ ばら てつ 梅 原 哲 (73)	瑞 単	栃 木 県	元 鹿沼市消防団 団長	わか い しょう じ 若 井 正 司 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 石岡市消防団 副団長	さくら い じょう じ 櫻 井 襄 次 (71)	瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 副団長	わた なべ てる あき 渡 邊 晃 章 (74)
瑞 単	茨 城 県	元 鉾田市旭消防団 団長	なが い みつ よし 永 井 三 好 (65)	瑞 小	群 馬 県	元 伊勢崎佐波広城市町村圏振興整備組合 消防正監	た だ き いち 多 田 紀 一 (70)
瑞 単	茨 城 県	元 石下町消防団 団長	なま い せい じゅう 生 井 清 重 (73)	瑞 小	群 馬 県	元 桐生市 消防正監	ふ じょう おき み 藤 生 修 身 (76)
瑞 単	茨 城 県	元 筑西市消防団 副団長	はこ もり まさる 箱 守 勝 (66)	瑞 双	群 馬 県	元 伊勢崎市消防団 団長	よし おか のお や 吉 岡 伸 也 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 土浦市消防団 副団長	よこ やま たけ し 横 山 武 司 (69)	瑞 単	群 馬 県	元 桐生市消防団 団長	さい とう いきお 齋 藤 勲 (71)
瑞 双	栃 木 県	元 岩舟町消防団 団長	かわ ら い いさむ 川原井 勇 (71)	瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 副分団長	し づか いわお 志 塚 巖 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 単	群 馬 県	元 みどり市東消防団 団長	やま ぐち まさ のり 道 (64)	瑞 単	埼 玉 県	元 大滝村消防団 副分団長	やま なか くめ 雄 (75)
瑞 単	群 馬 県	元 安中市消防団 団長	よこ やま きみ お 男 (68)	瑞 単	埼 玉 県	元 草加市消防団 副団長	やま なか たも みつ 光 (69)
瑞 小	埼 玉 県	元 浦和市 消防正監	かね こ けい じ 治 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	わた なべ げん じ 源次郎 (75)
瑞 双	埼 玉 県	元 小鹿野町消防団 団長	か とう たけ お 夫 (82)	瑞 小	千 葉 県	元 船橋市 消防正監	つみ た けん じ 司 (70)
瑞 双	埼 玉 県	元 幸手市消防団 団長	なか むら みち お 夫 (77)	瑞 小	千 葉 県	元 市川市 消防正監	は せ がわ ひろし 弘 (73)
瑞 双	埼 玉 県	元 岩槻市消防団 団長	やなぎ さわ ふし 雄 (83)	瑞 双	千 葉 県	元 野田市消防団 団長	なか の もと いち 市 (71)
瑞 単	埼 玉 県	元 鳩ヶ谷市消防団 分団長	お ぐま けん じ 治 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 千倉町消防団 副団長	いし い けい ちろう 一郎 (69)
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷地区消防組合 熊谷消防団 団長	こ 池 いけ じ 治 (76)	瑞 単	千 葉 県	元 千漣町消防団 団長	うち た まし すけ 助 (68)
瑞 単	埼 玉 県	元 久喜地区消防組合 鷺宮消防団 団長	こ ばやし たも 好 (71)	瑞 単	千 葉 県	元 大多喜町消防団 団長	か とう のぼる 昇 (67)
瑞 単	埼 玉 県	元 庄和町消防団 団長	さか まき いさお 男 (69)	瑞 単	千 葉 県	元 鎌ヶ谷市消防団 副団長	すず き せい き 喜 (68)
瑞 単	埼 玉 県	元 志木市消防団 副団長	し むら けい 雄 (65)	瑞 単	千 葉 県	元 柏市消防団 団長	ひろ せ しげる 繁 (64)
瑞 単	埼 玉 県	元 比企広域市町村圏 組合滑川消防団 団長	すず きん まさ ゆき 之 (68)	瑞 単	千 葉 県	元 成田市消防団 分団長	みや ざき こう 一 (69)

瑞 中	東 京 都	元 東京消防庁 消防総監	いけ だ はる お 雄 (70)	瑞 単	東 京 都	元 本郷消防団 副団長	え じま あき のぶ 信 (72)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	おか ひろし 宏 (70)	瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 団長	おお の ひさし 寛 (66)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	さか もと みつ お 男 (70)	瑞 単	東 京 都	元 光が丘消防団 副団長	か とう ひで つぐ 嗣 (68)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	もり わき きとし 諭 (70)	瑞 単	東 京 都	元 世田谷消防団 副団長	か の う よし あき 昭 (76)
瑞 双	東 京 都	元 本田消防団 団長	きよ た けい 清 (70)	瑞 単	東 京 都	元 足立消防団 副団長	くろ だ しげ ふし 俊 (72)
瑞 双	東 京 都	元 杉並消防団 団長	さい とう しょう いち 一 (70)	瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 副団長	こ じま のぶ ゆき 五 (72)
瑞 双	東 京 都	元 池袋消防団 団長	さか もと さだ お 男 (77)	瑞 単	東 京 都	元 矢口消防団 分団長	こ みや ひろ かつ 捷 (68)
瑞 双	東 京 都	元 野方消防団 団長	た なか みのぶ 實 (71)	瑞 単	東 京 都	元 蒲田消防団 団長	さい しょう たけし 武 (71)
瑞 双	東 京 都	元 清瀬市消防団 団長	むら の いさお 勲 (71)	瑞 単	東 京 都	元 牛込消防団 団長	さん ぐさ まさ お 男 (72)
瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	いし かわ みつ お 男 (71)	瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 副団長	しの はら ふし お 男 (69)
瑞 単	東 京 都	元 臨港消防団 分団長	い ふう りょう じ 司 (73)	瑞 単	東 京 都	元 板橋消防団 副団長	オ ふう しょう じ 二 (72)
瑞 単	東 京 都	元 金町消防団 分団長	いわ きき 英二 郎 (67)	瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 団長	オ ね しょう いち 一 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	東 京 都	元 稲城市消防団 団長	せい の 野 享 (70)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市加賀町消防 団 団長	くら た しげ お 夫 (70)
瑞 単	東 京 都	元 本所消防団 副団長	その の 部 吉 勝 (71)	瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 団長	こ やま ひろし (74)
瑞 単	東 京 都	元 志村消防団 副団長	たか き のり お 文 (73)	瑞 双	神 奈 川 県	元 真鶴町消防団 団長	つゆ き かず お 男 (70)
瑞 単	東 京 都	元 品川消防団 分団長	なが めき せい すけ (72)	瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市麻生消防団 団長	よこ た ゆたか (71)
瑞 単	東 京 都	元 上野消防団 副団長	はし もと あきと (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市長消防団 分団長	いし い あき お 雄 (72)
瑞 単	東 京 都	元 江戸川消防団 分団長	まつ い のぶ お 雄 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市中原消防団 団長	おお たに まさ お 勝 (70)
瑞 単	東 京 都	元 浅草消防団 副団長	もち き かず お 雄 (61)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜磯子消防団 分団長	すず き あき なつ (76)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	さか い まさる (79)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市川崎消防団 分団長	たけ はら せい じ (76)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横須賀市 消防正監	なか むら けん じ (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜港南消防団 副団長	ね もと けん いち (77)
瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防司監	み しや ひで お 夫 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜港北消防団 副団長	まえ かわ こう いち (77)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜神奈川消防 団 団長	い とう ひろ かず (80)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 分団長	まつ もと さい じ (74)
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市寿消防団 団長	おお やす かつ み (73)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市山手消防団 副団長	まつ もと きだ お 夫 (77)

瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 団長	み 三 田 ひさ お 夫 (74)	瑞 単	新 潟 県	元 白根市消防団 分団長	こ ばやし しげ お 雄 (82)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市長消防団 分団長	あし の まさ お 良 (73)	瑞 単	新 潟 県	元 五泉市消防団 副団長	さい とう しやう へい (70)
瑞 小	新 潟 県	元 新潟市 消防正監	さ とう かず お 男 (77)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市消防団 分団長	せい の たけし (74)
瑞 双	新 潟 県	元 新井市消防団 団長	いし だ ひで お 雄 (72)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市東消防団 分団長	つ の ひろむ (75)
瑞 単	新 潟 県	元 川西町消防団 分団長	あお き しん いく (83)	瑞 単	新 潟 県	元 阿賀町消防団 副団長	ふじ わら ゆき お 夫 (66)
瑞 単	新 潟 県	元 見附市消防団 団長	いし ぐろ ひろし (69)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市西消防団 副団長	やま ざわ まさ し (73)
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市消防団 分団長	いし ざか まさ たい (81)	瑞 単	新 潟 県	元 両津市消防団 分団長	やま ぐち き いち (75)
瑞 単	新 潟 県	元 村上市消防団 副団長	いそ べ たか お 男 (69)	瑞 単	新 潟 県	元 寺泊町消防団 団長	やま ざき ひろ いち (67)
瑞 単	新 潟 県	元 牧村消防団 団長	おお つか ただ お 男 (67)	瑞 単	新 潟 県	元 南魚沼市消防団 団長	ゆ もと ただし (65)
瑞 単	新 潟 県	元 柏崎市消防団 副団長	お ぐろ しょう じ (75)	瑞 単	新 潟 県	元 与板町消防団 副団長	よし はら ひさ お 雄 (72)
瑞 単	新 潟 県	元 燕市消防団 副団長	お だ せい じ (75)	瑞 小	富 山 県	元 富山市 消防正監	たかむら てる あり (70)
瑞 単	新 潟 県	元 三条市三条消防団 分団長	かき しま こう へい (69)	瑞 双	富 山 県	元 高岡市消防団 副団長	おお い とし お 夫 (72)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	富 山 県	元 朝日町消防団 副団長	よし 吉 江 守 照 (70)	瑞 単	石 川 県	元 柳田村消防団 副団長	あか だ かず 一 男 (73)
瑞 単	富 山 県	元 水見市消防団 分団長	いけ 池 田 安 博 (79)	瑞 単	石 川 県	元 加賀市消防団 分団長	あ だか しゆふ 安 宅 忍 (74)
瑞 単	富 山 県	元 黒部市消防団 団長	かみ しま よし あき 上 島 由 昭 (66)	瑞 単	石 川 県	元 金沢市第二消防団 分団長	くば かつ じゆ 窪 勝 治 (75)
瑞 単	富 山 県	元 婦中町消防団 分団長	きの しだ よし のぶ 木 下 良 信 (77)	瑞 単	石 川 県	元 山中町消防団 分団長	しも ぎ じゆ 下 出 宏 (73)
瑞 単	富 山 県	元 大山町消防団 分団長	き よま てる お 木 山 輝 雄 (86)	瑞 単	石 川 県	元 七尾鹿島広域圏事 務組合第1消防団 副団長	やま ぎき ひで けい 山 崎 秀 行 (75)
瑞 単	富 山 県	元 井波町消防団 分団長	さい とう かず お 齋 藤 和 男 (79)	瑞 単	石 川 県	元 金沢市第一消防団 分団長	よし だ みゆき 吉 田 実 實 (77)
瑞 単	富 山 県	元 富山市第一消防団 分団長	たに い たく 谷 井 副 (84)	瑞 単	福 井 県	元 福井地区消防組合 福井地区消防団 分団長	たけ しだ けんいちろう 竹 下 健一郎 (72)
瑞 単	富 山 県	元 砺波市消防団 分団長	はつ しま みゆき 初 山 実 (82)	瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合今庄 消防団 団長	にし やま とも せう 西 山 友 造 (75)
瑞 単	富 山 県	元 南砺市消防団 副団長	ふじ 井 たか のぶ 藤 井 孝 信 (73)	瑞 単	福 井 県	元 若狭消防組合高浜 消防団 団長	まつ もと きだ ひこ 松 本 貞 彦 (71)
瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 副団長	ほり 久美雄 (71)	瑞 単	福 井 県	元 大野地区消防組合 和泉消防団 分団長	まる やま よし はる 丸 山 義 治 (72)
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	まつ だ まさ のり 松 田 征 憲 (69)	瑞 単	福 井 県	元 嶺北消防組合あわ ら消防団 分団長	みなみ かわ しんめい 南 川 俊 明 (71)
瑞 双	石 川 県	元 七尾鹿島広域圏事 務組合第1消防団 団長	なか お せい 中 尾 精一郎 (72)	瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合河野 消防団 分団長	みや もと とし けい 宮 本 利 之 (73)

瑞 小	山 梨 県	元 甲府地区広域行政 事務組合 消防正監	こし みる かず お 興 水 一 雄 (70)	瑞 単	長 野 県	元 小谷村消防団 団長	はら しん じ 原 俊 司 (67)
瑞 単	山 梨 県	元 三富村消防団 団長	あき 野 ふじ お 縄 野 富士雄 (68)	瑞 単	長 野 県	元 戸隠村消防団 団長	やま ぐち おん べい 山 口 文 平 (70)
瑞 単	山 梨 県	元 高根町消防団 団長	うた だ すなお 歌 田 直 (64)	瑞 小	岐 阜 県	元 岐阜市 消防正監	おく もり かず ひろ 奥 森 一 弘 (70)
瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 副団長	かや めま たもつ 萱 沼 保 (72)	瑞 双	岐 阜 県	元 郡上市消防団 団長	うま ば まさ なり 馬 場 政 成 (70)
瑞 単	山 梨 県	元 山中湖村消防団 団長	たか ひら ゆう ぞう 高 村 祐 三 (71)	瑞 双	岐 阜 県	元 岐阜市 消防正監	こん とう つとむ 近 藤 力 (72)
瑞 単	山 梨 県	元 牧丘町消防団 団長	たけ かわ たまさ 竹 川 環 (72)	瑞 双	岐 阜 県	元 岐阜市 消防正監	たか はし ずみ お 高 橋 澄 夫 (70)
瑞 単	山 梨 県	元 上野原町消防団 副団長	みぞ り りょう じ 溝呂木 昭 次 (69)	瑞 双	岐 阜 県	元 宮川村消防団 団長	ひら さわ とし き 平 澤 外司来 (73)
瑞 双	長 野 県	元 長野市 消防正監	うち やま かく お 内 山 確 雄 (70)	瑞 双	岐 阜 県	元 本巣市消防団 副団長	ふじ ねら つね よし 藤 原 常 義 (69)
瑞 単	長 野 県	元 塩尻市消防団 団長	あか はね たけ お 赤 羽 猛 夫 (64)	瑞 双	岐 阜 県	元 美濃市消防団 団長	ほり ばた ゆき かず 堀 端 幸 和 (74)
瑞 単	長 野 県	元 佐久穂町消防団 副団長	いい づか まさる 飯 塚 優 (62)	瑞 双	岐 阜 県	元 高山市消防団 団長	まつ がき あき お 松 垣 朝 雄 (70)
瑞 単	長 野 県	元 御代田町消防団 団長	くら しか まさ みち 倉 坂 正 道 (61)	瑞 双	岐 阜 県	元 宮村消防団 団長	みち うえ ひこ ち 道 上 彦 榮 (72)
瑞 単	長 野 県	元 信州新町消防団 団長	し みづ いわお 清 水 巖 (68)	瑞 単	岐 阜 県	元 各務原市川島消防 団 団長	お げき かず お 尾 関 和 雄 (64)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	岐 阜 県	元 各務原市消防団 副団長	こ 五 島 彰 弘 (68)	瑞 小	愛 知 県	元 春日井市 消防正監	い 井 村 菊 男 (70)
瑞 単	岐 阜 県	元 中津川市消防団 副団長	はら 原 まさ 政 幸 (68)	瑞 小	愛 知 県	元 岡崎市 消防正監	おお 山 やま かず お 夫 (73)
瑞 単	岐 阜 県	元 笠松町消防団 副団長	もり 森 ふみ 文 雄 (66)	瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防正監	おく 村 むら かい こ 奥 村 快 悟 (83)
瑞 単	岐 阜 県	元 関市消防団 団長	やま 山 だ 安 やす ひこ 彦 (76)	瑞 単	愛 知 県	元 岡崎市六名消防団 団長	あさ 浅 い ずみ 井 澄 お 夫 (68)
瑞 双	静 岡 県	元 焼津市消防団 団長	はぎ 萩 むら 幸 雄 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 一宮市一宮消防団 分団長	いし 石 だ 和 かず ひろ (63)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市静岡消防団 分団長	おお 大 つか 塚 ただし 忠 (68)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市城西消防団 団長	い 位 だ 明 あき ひこ 田 明 彦 (77)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 分団長	さ 佐 さう 藤 せん たろう (75)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市平和消防団 団長	し 清 みず おさむ 水 修 (74)
瑞 単	静 岡 県	元 大井川町消防団 団長	すぎ 杉 もと き 本 佐 利 (85)	瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 副分団長	たに 谷 とし 利 はん 春 (60)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 副団長	すず 鈴 き 木 まさ 正 己 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市大宝消防団 団長	なほ 種 とし 豊 かず (75)
瑞 単	静 岡 県	元 南伊豆町消防団 団長	たか 高 はし みち 橋 道 安 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市夕路消防団 団長	みず 水 たに じ 谷 治 おう 郎 (75)
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 副団長	やま 山 だ 孝 たか し 志 (72)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市常磐消防団 団長	もり 森 べ かん 部 勘 いち (78)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	わた 渡 たへ よし 邊 由 清 (71)	瑞 双	三 重 県	元 津市河芸消防団 団長	ふな 舟 だ 英 ひで お 田 英 雄 (73)
瑞 単	三 重 県	元 熊野市消防団 分団長	おか 岡 もと みつ ひろ 本 光 弘 (70)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	もり 森 た じん しん 田 眞 司 (76)
瑞 単	三 重 県	元 御浜町消防団 副団長	かど 門 こう 耕 三 (75)	瑞 単	京 都 府	元 亀岡市消防団 団長	おお 大 にし まさ み 面 正 美 (63)
瑞 単	三 重 県	元 尾鷲市消防団 副分団長	きく 菊 ち こ 小 四郎 (72)	瑞 単	京 都 府	元 京都市南消防団 分団長	かた 樫 ひさ お 久 夫 (80)
瑞 単	三 重 県	元 松阪市消防団 副団長	なか 中 つ 津 いち 蔵 (75)	瑞 単	京 都 府	元 伊根町消防団 団長	こ 小 みな よし 南 良 雄 (64)
瑞 単	三 重 県	元 津市津消防団 副団長	やま 山 ぎき よし あき 崎 嘉 秋 (69)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	つじ 辻 みつ お 光 男 (85)
瑞 小	滋 賀 県	元 大津市 消防正監	お 小 ばた みつ よし 畑 光 美 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	の 野 むら ひろ かず 村 廣 一 (79)
瑞 双	滋 賀 県	元 高島市消防団 団長	い 伊 ば たか し 庭 孝 (76)	瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	やま 山 ぐち よし ひろ 山 口 泰 弘 (75)
瑞 双	滋 賀 県	元 湖南市消防団 団長	こ 小 ばやし おさむ 林 修 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市山科消防団 分団長	やま 山 もと しろうた 本 庄 太郎 (77)
瑞 双	滋 賀 県	元 長浜市消防団 団長	はし 橋 もと よし ひろ 本 良 弘 (71)	瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防司監	いけ 池 だ いく お 田 勳 (70)
瑞 双	滋 賀 県	元 愛荘町消防団 団長	ふじ 藤 い かず お 居 和 雄 (68)	瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	おか 岡 もと まさ お 本 雅 夫 (71)
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 団長	たに 谷 まさ お 正 男 (71)	瑞 小	大 阪 府	元 高槻市 消防正監	はし 橋 もと たか し 本 孝 司 (74)
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	くり 栗 た ひで お 田 秀 夫 (77)	瑞 単	大 阪 府	元 堺市美原消防団 分団長	うめ 梅 がわ 幸 お 川 幸 雄 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 分団長	かみえ たか し 司 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防 団分団長	いし ぼし たけし (85)
瑞 単	大 阪 府	元 羽曳野市消防団 副団長	こ なに ひよし 準 (74)	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市飾磨消防団 団長	かに ぼろ きたし 哲 (71)
瑞 単	大 阪 府	元 和泉市消防団 副団長	さか しだ まさ お 男 (74)	瑞 単	兵 庫 県	元 相生市消防団 分団長	かつ たに とし ひろ 宏 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 副団長	た ぐち かず なり 成 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 分団長	こ ぼやし きん いち 一 (77)
瑞 単	大 阪 府	元 寝屋川市消防団 副団長	ひら 平 たか 裕 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	たつ うま しやう じ 治 (81)
瑞 単	大 阪 府	元 八尾市消防団 副団長	まつ むら かつ み 美 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 小野市消防団 副団長	た なか やす ひろ 廣 (64)
瑞 単	大 阪 府	元 池田市消防団 分団長	むら かみ かつ ひこ 彦 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	たま 高 へい せう 三 (64)
瑞 小	兵 庫 県	元 西宮市 消防正監	きし 岸 もと たけ じ 治 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 分団長	だん 團 たけ じ 司 (68)
瑞 小	兵 庫 県	元 加古川市 消防正監	きよ 清 た かし ひろ 弘 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 淡路市消防団 副団長	たん 丹 野 たけし 匡 (64)
瑞 小	兵 庫 県	元 尼崎市 消防正監	ちか 成 なり よし お 男 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市北消防団 副団長	つじ い たかし 隆 (76)
瑞 双	兵 庫 県	元 豊岡市日高消防団 団長	たけ 竹 なか まさ み 巳 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	なか 中 じやう かん 寛 爾 (81)
瑞 双	兵 庫 県	元 加東市消防団 団長	よし 吉 田 しげる 繁 (73)	瑞 単	兵 庫 県	元 たつの市消防団 副団長	まえ 前 かわ たか き 川 隆 男 (67)
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 副団長	まる 丸 おか ちり お 夫 (77)	瑞 単	和 歌 山 県	元 本宮町消防団 団長	くり 栗 す かつ お 夫 (70)
瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	みや 宮 なが しょう せう 三 (64)	瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	きい 難 か とう べ 藤 兵衛 (77)
瑞 単	奈 良 県	元 大塔村消防団 分団長	つじ 辻 うち すえ はる 治 (79)	瑞 単	和 歌 山 県	元 すさみ町消防団 副団長	じやう 城 くに ひこ 邦 彦 (79)
瑞 単	奈 良 県	元 下北山村消防団 副団長	なか 中 ひろ ふみ 文 (70)	瑞 単	和 歌 山 県	元 かつらぎ町消防団 副団長	なが 永 おか つぶ よし 岡 嗣 好 (74)
瑞 単	奈 良 県	元 大和郡山市消防団 分団長	なか 中 ひら まさ かず 正 和 (75)	瑞 単	和 歌 山 県	元 熊野川町消防団 分団長	はき 萩 ほろ やす じ 萩 原 安 次 (80)
瑞 単	奈 良 県	元 上牧町消防団 副団長	ふじ 藤 かわ ぬ 米 つぐ 次 (69)	瑞 単	和 歌 山 県	元 有田市消防団 副団長	ふく 福 しま じやん じ 島 淳 次 (73)
瑞 単	奈 良 県	元 上北山村消防団 分団長	ます 増 もと たもつ 保 (74)	瑞 双	鳥 取 県	元 三朝町消防団 団長	あき 秋 やま いち ろう 山 一 郎 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 十津川村消防団 分団長	まつ 松 ぼ 葉 ふし ひさ 良 久 (80)	瑞 双	鳥 取 県	元 伯耆町消防団 団長	なん 南 ぼ まさ あき 槃 正 明 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 分団長	むら 村 た ふし ひろ 嘉 弘 (66)	瑞 双	鳥 取 県	元 福部村消防団 団長	まえ 前 た すずむ 田 進 (74)
瑞 双	和 歌 山 県	元 有田川町消防団 団長	ひがし 東 たか お 響 雄 (71)	瑞 双	鳥 取 県	元 用瀬町消防団 団長	もり 森 お へい いち 尾 平 一 (69)
瑞 双	和 歌 山 県	元 印南町消防団 団長	やま 山 しだ じ 世之彦 (67)	瑞 単	鳥 取 県	元 日野町消防団 副団長	すみ 住 だ ひろし 田 寛 (65)
瑞 単	和 歌 山 県	元 打田町消防団 団長	えん 延 よ やす てる 與 恭 光 (70)	瑞 単	鳥 取 県	元 境港市消防団 副団長	ふく 福 い まさ お 井 正 夫 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	鳥 取 県	元 名和町消防団 団長	綿 谷 宏 永 (70)	瑞 双	岡 山 県	元 日生町消防団 団長	中 村 征 三 (68)
瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 分団長	飯 塚 秀 利 (85)	瑞 双	岡 山 県	元 勝央町消防団 団長	福 島 宏 毅 (67)
瑞 単	島 根 県	元 出雲市大社消防団 団長	川 上 良 一 (64)	瑞 単	岡 山 県	元 東粟倉村消防団 団長	岡 野 卓 夫 (76)
瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 副団長	熊 谷 忠 男 (71)	瑞 単	岡 山 県	元 湯原町消防団 副団長	片 山 富 夫 (74)
瑞 単	島 根 県	元 金城町消防団 副団長	幸 田 道 吉 (77)	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	田 中 義 彰 (70)
瑞 単	島 根 県	元 大田市消防団 副団長	佐 藤 博 (69)	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	内 藤 節 夫 (71)
瑞 単	島 根 県	元 西ノ島町消防団 団長	竹 中 余志一 (70)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	西 山 一 男 (68)
瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 分団長	寺 戸 良 雄 (85)	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	藤 井 傳 志 (78)
瑞 単	島 根 県	元 広瀬町消防団 分団長	藤 原 宗 悦 (77)	瑞 単	岡 山 県	元 高梁市消防団 副団長	藤 井 正 伸 (67)
瑞 単	島 根 県	元 大田市消防団 分団長	別 所 健 治 (70)	瑞 単	岡 山 県	元 笠岡市消防団 分団長	松 田 敏 正 (70)
瑞 小	岡 山 県	元 岡山市 消防正監	奥 田 勝 (71)	瑞 単	岡 山 県	元 笠岡市消防団 分団長	三 宅 勝 二 (70)
瑞 双	岡 山 県	元 英田町消防団 団長	岡 崎 邦 伍 (73)	瑞 小	広 島 県	元 広島市 消防正監	香 川 敏 堅 (70)

瑞 小	広 島 県	元 福山地区消防組合 消防正監	佐 藤 暢 家 (70)	瑞 単	広 島 県	元 竹原市消防団 分団長	西 野 勇 一 (76)
瑞 小	広 島 県	元 呉市 消防正監	榊 岡 勝 利 (70)	瑞 単	広 島 県	元 戸河内町消防団 部長	藤 本 兼 人 (80)
瑞 双	広 島 県	元 呉市消防団 団長	大 段 忠 彦 (77)	瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 副分団長	藤 原 實 (76)
瑞 双	広 島 県	元 安浦町消防団 団長	山 岡 正二郎 (70)	瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 分団長	古 本 五 三 (79)
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	大 晶 範 治 (73)	瑞 単	広 島 県	元 新市町消防団 分団長	松 村 成 美 (84)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副団長	掛 本 廣太郎 (70)	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	宮 崎 龍 男 (74)
瑞 単	広 島 県	元 倉橋町消防団 副団長	城 戸 秀 和 (74)	瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 分団長	村 上 五 十六 (75)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	坂 本 信 弘 (71)	瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防 団 分団長	吉 益 精 (75)
瑞 単	広 島 県	元 庄原市消防団 分団長	佐々木 覺 郎 (76)	瑞 小	山 口 県	元 下関地区広域行政 事務組合 消防正監	中 村 宏 (70)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 副団長	佐々木 公 雄 (79)	瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防 団 分団長	池 村 豊 (73)
瑞 単	広 島 県	元 美土里町消防団 分団長	田 川 清 (85)	瑞 単	山 口 県	元 新南陽市消防団 分団長	大 中 進 (73)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 分団長	竹 内 正 行 (75)	瑞 単	山 口 県	元 美東町消防団 分団長	岡 邑 忠 美 (77)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	おみ もと のり あき (70)	瑞 単	山 口 県	元 上関町消防団 分団長	みや した もと すけ (77)
瑞 単	山 口 県	元 平生町消防団 分団長	き たに ただし (87)	瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 副団長	みや た のぶ はる (76)
瑞 単	山 口 県	元 山陽町消防団 分団長	き ふう こう いち (73)	瑞 単	山 口 県	元 宇都市消防団 分団長	むら た まもる (85)
瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 分団長	しも むら かず お 生 (74)	瑞 単	山 口 県	元 阿武町消防団 分団長	も がり しんすけ すけ (77)
瑞 単	山 口 県	元 美祢市消防団 分団長	たか み あき (81)	瑞 双	徳 島 県	元 東みよし町消防団 団長	かわ ほん せい じ次 (70)
瑞 単	山 口 県	元 楠町消防団 副団長	た なか たか ひで 英 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 土成町消防団 団長	お 池 いけ つよし 硬 (76)
瑞 単	山 口 県	元 柳井市消防団 分団長	な みる ただ お 生 (70)	瑞 単	徳 島 県	元 脇町消防団 副団長	かた おか なみ 雄 (76)
瑞 単	山 口 県	元 周東町消防団 副団長	つみ もと すみ よし 良 (73)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 分団長	さい ふう はち ろう (66)
瑞 単	山 口 県	元 旭村消防団 分団長	つち やま いく ひさ 久 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 分団長	き たけ たけ と 司 (66)
瑞 単	山 口 県	元 徳山市消防団 分団長	はし もと りき たけ 武 (75)	瑞 単	徳 島 県	元 那賀町消防団 団長	つかさ ひろ ゆき 之 (69)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	はやし せんごふろう 銃三郎 (76)	瑞 単	徳 島 県	元 鳴門市消防団 副団長	なか しま おきむ 修 (73)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	まさ だ あず ひろ 弘 (73)	瑞 単	徳 島 県	元 勝浦町消防団 団長	にし せい きく き 西 野 菊 男 (64)

瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 分団長	あん どう み のり 安 藤 三 徳 (76)	瑞 単	香 川 県	元 香川町消防団 分団長	やま もと たか よし 山 本 高 義 (79)
瑞 単	香 川 県	元 東かがわ市消防団 副団長	いわ せ よし あき 岩 瀬 良 明 (70)	瑞 小	愛 媛 県	元 松山市 消防司監	すぎ もと しず お 杉 本 静 夫 (70)
瑞 単	香 川 県	元 多度津町消防団 副団長	おお しま みのも 大 嶋 實 (76)	瑞 双	愛 媛 県	元 東温市消防団 団長	い が よし お 伊 賀 義 夫 (66)
瑞 単	香 川 県	元 志度町消防団 分団長	き うち のぶ ゆき 木 内 信 幸 (79)	瑞 単	愛 媛 県	元 内子町消防団 団長	うえ おか とも あき 上 岡 豊 秋 (64)
瑞 単	香 川 県	元 豊中町消防団 副団長	こ やま のぼる 小 山 昇 (79)	瑞 単	愛 媛 県	元 広見町消防団 団長	うめ ぎき よし あき 梅 崎 義 昭 (72)
瑞 単	香 川 県	元 綾歌町消防団 団長	さ さ き しず お 佐々木 静 男 (74)	瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市伊予三 島消防団 分団長	かわ かみ さとし 川 上 慧 (68)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	すえ ざわ たもつ 末 澤 保 (65)	瑞 単	愛 媛 県	元 大三島町消防団 団長	さ さ き こう や 佐々木 幸 也 (64)
瑞 単	香 川 県	元 善通寺市消防団 副団長	た はら くに お 田 原 國 男 (74)	瑞 単	愛 媛 県	元 東温市消防団 副団長	たか すか しん いち 高須賀 信 一 (66)
瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 副団長	てら い あき 寺 井 章 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	たか はし ひで お 高 橋 秀 雄 (70)
瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 団長	ふじ なら とし はる 藤 原 俊 治 (74)	瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	にし おか くに さだ 西 岡 国 定 (72)
瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 団長	まつ おか はや し 松 岡 速 士 (68)	瑞 単	愛 媛 県	元 宮窪町消防団 分団長	ふじ い やす とし 藤 井 康 利 (76)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	み よし ひろ ふみ 三 好 廣 文 (74)	瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	ふじ た すえ みつ 藤 田 末 光 (84)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 単	愛 媛 県	元 河辺村消防団 団長	まつ 松 本 意 思 男（64）	瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防司監	おり 折 田 弘 信（70）
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	やす 安 川 敬 三（65）	瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	はし 橋 本 政 矩（72）
瑞 双	高 知 県	元 西土佐村消防団 団長	かわ 川 上 健 彦（67）	瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	みなみ 南 屋 丞（70）
瑞 双	高 知 県	元 日高村消防団 団長	はま 濱 田 征 幸（72）	瑞 双	福 岡 県	元 方城町消防団 副団長	くら 倉 石 菊 男（78）
瑞 双	高 知 県	元 仁淀川町消防団 団長	ふじ 藤 原 芳 男（68）	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市中央消防団 副団長	あか 赤 松 敬 康（75）
瑞 双	高 知 県	元 香美市土佐山田消防団 団長	よ 世 ノ 本 豊 年（68）	瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 分団長	うえ 上 野 邦 彦（76）
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合東津野消防団 副団長	い 井 関 信 一 郎（79）	瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	うえ 上 森 十 二 雄（79）
瑞 単	高 知 県	元 黒潮町消防団 副団長	いま 今 西 健 三（65）	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市中央消防団 副分団長	お 小 野 義 光（84）
瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合奈半利町消防団 副団長	お 岳 本 幸 己（70）	瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 分団長	かつ 甲 木 敏 弘（76）
瑞 単	高 知 県	元 室戸市消防団 副団長	く 久 保 照 吉（69）	瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 分団長	かわ 河 口 は じ め（73）
瑞 単	高 知 県	元 安芸市消防団 分団長	せん 仙 頭 秋 一（77）	瑞 単	福 岡 県	元 川崎町消防団 分団長	かわ 川 邊 正 一（80）
瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	た 田 村 信 義（81）	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉北消防団 分団長	くに 國 武 珍 俊（73）

瑞 単	福 岡 県	元 中間市消防団 分団長	さかい 境 成 主（77）	瑞 双	佐 賀 県	元 神崎市消防団 団長	いの 井 上 孝 司（66）
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市南消防団 団長	しん 新 開 康 善（72）	瑞 双	佐 賀 県	元 吉野ヶ里町消防団 団長	ふく 福 岡 茂 幸（67）
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市南消防団 副分団長	たち 立 川 圭 一（82）	瑞 双	佐 賀 県	元 鳥栖市消防団 団長	まつ 松 隈 義 彰（80）
瑞 単	福 岡 県	元 嘉穂町消防団 分団長	た 田 中 忠 彦（78）	瑞 単	佐 賀 県	元 福富町消防団 副団長	いし 石 隈 嘉 徳（69）
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市南消防団 分団長	とう 藤 孝 雄（82）	瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	お 大 坪 利 孝（75）
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市八幡西消防団 分団長	なか 中 村 正 和（75）	瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 団長	きだ 貞 方 喜 延（70）
瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 分団長	お 瀬 寝 忠 朗（80）	瑞 単	佐 賀 県	元 相知町消防団 副団長	とも 友 田 尚 司（72）
瑞 単	福 岡 県	元 芦屋町消防団 副団長	の 野 間 壯 兵（67）	瑞 単	佐 賀 県	元 太良町消防団 副団長	やま 山 口 わ たる（67）
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	ひ 樋 口 利 正（78）	瑞 双	長 崎 県	元 川棚町消防団 団長	いち 一 釣 正 吉（70）
瑞 単	福 岡 県	元 桂川町消防団 分団長	ふじ 藤 川 福 司（78）	瑞 双	長 崎 県	元 対馬市消防団 団長	なが 永 留 市 喜（69）
瑞 単	福 岡 県	元 水巻町消防団 副団長	ふじ 藤 本 安 男（65）	瑞 双	長 崎 県	元 諫早市消防団 団長	ふく 福 武 靖 夫（84）
瑞 単	福 岡 県	元 川崎町消防団 分団長	や 矢 吹 照 次 郎（84）	瑞 双	長 崎 県	元 鹿町町消防団 団長	まえ 前 田 勝 喜（70）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 双	長 崎 県	元 高来町消防団 団長	まつ 松 本 せい 紀 (69)	瑞 双	熊 本 県	元 美里町消防団 団長	わた 渡 辺 つぎ よし (71)
瑞 双	長 崎 県	元 新上五島町消防団 団長	もと 本 村 きち 郷 (74)	瑞 単	熊 本 県	元 南阿蘇村消防団 団長	い 伊 藤 りょう ち (64)
瑞 双	長 崎 県	元 長与町消防団 団長	もり 森 たい 三 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 菊鹿町消防団 団長	こ 木 ば けん じ りょう (65)
瑞 単	長 崎 県	元 福江市消防団 分団長	え 江 がしう たか よし (77)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	た 田 なか まる 守 (75)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	の 野 なか ひで お 生 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副団長	なへ 鍋 た せい じ 二 (74)
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	ふく 福 だ まさ ふみ (70)	瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 副団長	ひら 平 い のぶ 雄 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 平戸市消防団 団長	ふじ 藤 た ほう しょう 照 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 苓北町消防団 団長	ふく 福 やま たけし 健 (65)
瑞 単	長 崎 県	元 高島町消防団 団長	まつ 松 島 ひろし 洋 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 嘉島町消防団 団長	まえ 前 た よし ひろ 弘 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	まつ 松 の 野 よし 光 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 宮原町消防団 団長	まつ 松 た ちゅう いち (67)
瑞 単	長 崎 県	元 松浦市消防団 副団長	ちち 白 まじ よし 人 (72)	瑞 双	大 分 県	元 豊後大野市大野町 消防団 団長	あ 阿 べ よし ひろ 弘 (74)
瑞 単	長 崎 県	元 郷ノ浦町消防団 副団長	よこ 横 やま ます たか 剛 (72)	瑞 双	大 分 県	元 豊後大野市犬飼町 消防団 団長	い 生 しま ます あり 規 (71)
瑞 双	熊 本 県	元 小国町消防団 団長	い 伊 藤 ひで あき 昭 (73)	瑞 双	大 分 県	元 真玉町消防団 団長	たけ 竹 なか よし かつ 勝 (77)

瑞 単	大 分 県	元 九重町消防団 副団長	あな 穴 い た すけ 輔 (68)	瑞 単	宮 崎 県	元 延岡市北方消防団 団長	よし 吉 だ いくさぶろう 育三郎 (62)
瑞 単	大 分 県	元 蒲江町消防団 副団長	くさ 草 かり まさ よし (76)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 団長	た 田 べ い ゆう 五 優 (70)
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	ご 後 とう た りょう (83)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 団長	にし 西 ぞの とおる 園 徹 (73)
瑞 単	大 分 県	元 日田市上津江消防 団 団長	しま 嶋 きき やす なが (67)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 鹿島村消防団 団長	はし 橋 の よし かず 一 (81)
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	たしま だ しげ お 夫 (77)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 菱刈町消防団 団長	やま 山 しだ まさ み 下 正 美 (76)
瑞 単	大 分 県	元 山香町消防団 団長	つる 鶴 なり ひろし 宏 (67)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 さつま町消防団 副団長	いけ やま さち よし 池 山 幸 吉 (76)
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 副団長	なか の 野 あき 人 (69)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 名瀬市消防団 分団長	いずみ 泉 まえ みつ 前 光 (78)
瑞 単	大 分 県	元 中津市消防団 副団長	なか ほら たか ゆき 行 (70)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 大和村消防団 分団長	い 和 ずみ まつ お 泉 松 雄 (76)
瑞 双	宮 崎 県	元 門川町消防団 団長	にし 西 むら いきお 敷 (80)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 枕崎市消防団 部長	かご 籠 ほら さとし 原 諭 (74)
瑞 双	宮 崎 県	元 延岡市消防団 団長	ふく 福 しま こう いち (70)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	こ まさ しげ のり 小 牧 茂 則 (73)
瑞 単	宮 崎 県	元 串間市消防団 団長	かわ 川 きき とし ひろ 大 (70)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 姶良町消防団 分団長	せ 瀬 とやま じろう りょう 戸 山 十 郎 (71)
瑞 単	宮 崎 県	元 都城市都城消防団 分団長	ふく 福 なが ゆき のり 徳 (69)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 東串良町消防団 分団長	たけ 竹 うち まさる 内 優 (77)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 笠沙町消防団 分団長	た ばら しゅう じに (73)	旭 小	栃 木 県	現 (社)栃木県危険物 保安協会連合会 会長	まつ しま み み三 (83)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	まさ せ かつむつ (77)	旭 小	兵 庫 県	元 (財)兵庫県危険物 安全協会 理事長	よし だ しやう じ二 (87)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 根占町消防団 分団長	まる みね まさし 仁 (85)	旭 双	茨 城 県	現 (社)茨城県消防設 備協会 副会長	たいら けん じ次 (73)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 副団長	やま した いわお 巖 (77)	旭 双	群 馬 県	元 群馬県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	ふじ い ちずこ 藤子 (70)
瑞 単	沖 縄 県	元 名護市消防団 副団長	あがり え ふみ お 雄 (72)				

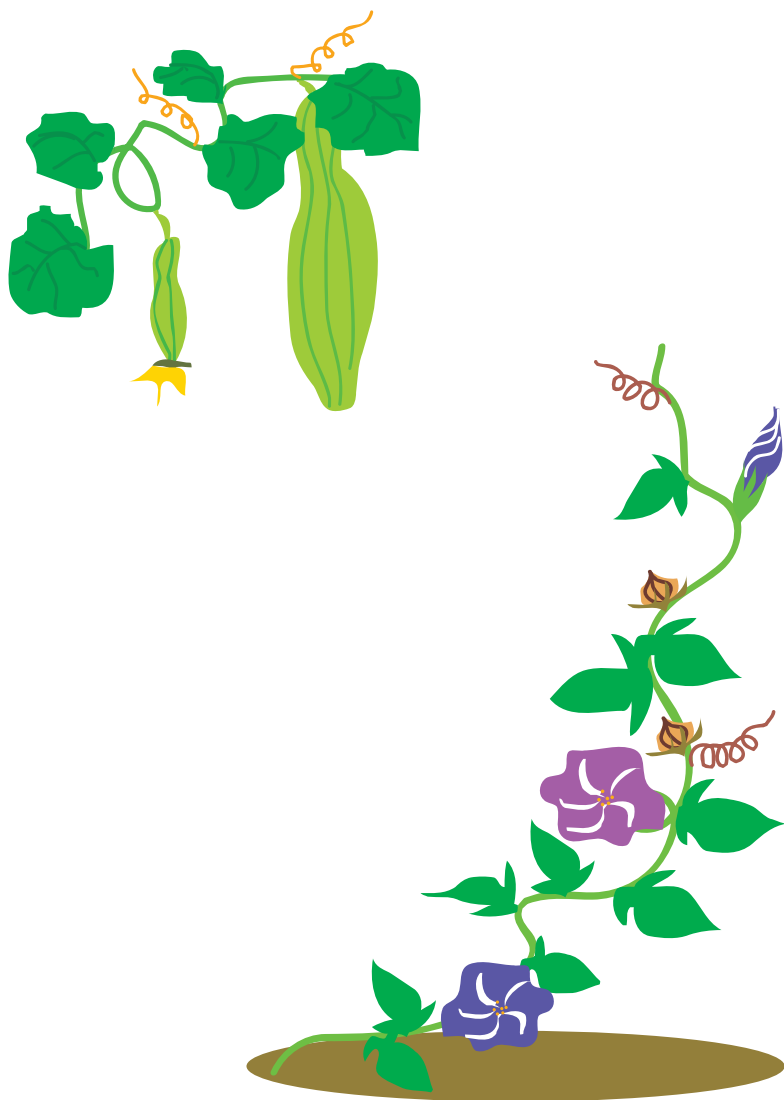
平成23年春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	北 海 道	現 南十勝消防事務組 合広尾町消防団 分団長	く とう ひろし 藤 博 (67)	藍 綬	福 島 県	現 相馬市消防団 分団長	たち や こう いち 立 谷 耕 一 (62)
藍 綬	北 海 道	現 北見地区消防組合 訓子府消防団 分団長	たけ なが しげ あち 武 永 重 道 (64)	藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 分団長	まる やま こう いち 丸 山 宏 一 (64)
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 女満別消防団 副団長	た なか きくじ 田 中 喜久次 (62)	藍 綬	茨 城 県	現 日立市消防団 団長	いま はし まつ お 今 橋 松 男 (63)
藍 綬	青 森 県	現 三戸市消防団 副団長	まろ ぐ みた お 越 後 貞 男 (61)	藍 綬	栃 木 県	現 さくら市消防団 副団長	なが い ひさ お 永 井 久 男 (56)
藍 綬	青 森 県	現 むつ市消防団 副団長	お ぎき かつ しろ 尾 崎 勝 城 (63)	藍 綬	栃 木 県	元 那須塩原市黒磯消 防団 副団長	わた なべ たかし 渡 邊 貞 (55)
藍 綬	青 森 県	現 弘前市消防団 団長	お だ ぶり たけ し 小田桐 武 志 (66)	藍 綬	栃 木 県	現 下野市消防団 団長	わた なべ よし かず 渡 邊 吉 一 (61)
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	き むら しょう 木 村 章 悦 (57)	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 副団長	き むら かず ゆき 木 村 一 幸 (61)
藍 綬	青 森 県	現 階上町消防団 団長	ない じょう よし たか 内 城 慶 富 (61)	藍 綬	埼 玉 県	現 上尾市消防団 団長	すず き ひろし 鈴 木 博 (62)
藍 綬	青 森 県	現 五戸町消防団 副団長	まつ お みつ まさ 松 尾 光 政 (61)	藍 綬	千 葉 県	現 松戸市消防団 副団長	よし おか つね お 吉 岡 常 夫 (60)
藍 綬	山 形 県	現 米沢市消防団 副団長	あらし だ ひさし 嵐 田 久 (59)	藍 綬	東 京 都	現 江戸川消防団 副団長	いけ だ さだ いち 池 田 定 市 (60)
藍 綬	山 形 県	現 山辺町消防団 副団長	たか うち りょう すけ 高 内 良 助 (62)	藍 綬	東 京 都	現 八丈町消防団 団長	おき やま たか まさ 沖 山 孝 雅 (58)
藍 綬	福 島 県	現 会津美里町消防団 副団長	かた はら あん じろう 片 原 金次郎 (60)	藍 綬	東 京 都	現 向島消防団 団長	おき やま ひとし 沖 山 仁 (62)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	東 京 都	現 大井消防団 部長	すぎ 杉 浦 実 (81)	藍 綬	石 川 県	現 七尾鹿島広域圏事 務組合第1消防団 団長	おお 大 湯 政 行 (62)
藍 綬	東 京 都	現 葛西消防団 分団長	すぎ 鈴 木 張 平 (66)	藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 分団長	もり 森 山 秀 夫 (62)
藍 綬	東 京 都	現 王子消防団 副団長	たか 高 橋 正 美 (66)	紅 綬	山 梨 県	人命救助者	さ 佐 藤 稔 (66)
藍 綬	東 京 都	現 田園調布消防団 分団長	なお 直 井 精一郎 (64)	藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 分団長	わた 渡 邊 修 一 (57)
藍 綬	東 京 都	現 麻布消防団 副団長	ふじ 藤 井 久 男 (67)	藍 綬	岐 阜 県	現 美濃市消防団 団長	いち 市 原 一 郎 (65)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市港北消防団 副団長	く 久 保 寺 孝 雄 (70)	藍 綬	岐 阜 県	現 神戸町消防団 副団長	かわ 川 瀬 芳 彦 (66)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	しん 進 藤 泰 宏 (63)	藍 綬	静 岡 県	現 裾野市消防団 副団長	すぎ 杉 山 久 (61)
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市臨港消防団 分団長	はん 本 間 善 博 (62)	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市東志賀消 防団 団長	おお 大 島 弘 (68)
藍 綬	富 山 県	現 南砺市消防団 副団長	あら 新 山 正 樹 (62)	藍 綬	愛 知 県	現 北名古屋市消防団 副団長	はっ 服 部 朋 亮 (54)
藍 綬	富 山 県	現 砺波市消防団 副団長	さかい 境 貞 雄 (62)	藍 綬	愛 知 県	現 常滑市消防団 団長	や 八 木 正 美 (58)
藍 綬	富 山 県	現 上市町消防団 副団長	まさ 笹 野 辰 雄 (58)	藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	ちか 近 澤 順 一 (70)
藍 綬	石 川 県	現 小松市消防団 副団長	おお 大 西 健 治 (64)	藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	でら 寺 田 正 一 (58)

藍 綬	滋 賀 県	現 近江八幡市消防団 団長	まつ 松 本 春 男 (63)	藍 綬	奈 良 県	現 五條市消防団 副団長	もり 森 下 孝 (63)
紅 綬	大 阪 府	人命救助者	の 野 村 純 (46)	藍 綬	和 歌 山 県	現 橋本市消防団 団長	ふじ 藤 形 好 章 (72)
紅 綬	大 阪 府	人命救助者	たか 道 本 正 行 (62)	藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 副団長	とう 唐 末 明 夫 (59)
藍 綬	大 阪 府	現 泉佐野市消防団 副団長	まさ 阪 口 賢 二 (60)	藍 綬	岡 山 県	現 美咲町消防団 団長	さ 左 居 喜 次 (55)
藍 綬	大 阪 府	現 東大阪市消防団 副団長	でん 寺 師 典 重 (58)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	いし 石 堂 政 明 (67)
藍 綬	大 阪 府	現 箕面市消防団 団長	とよ 豊 田 茂 実 (58)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	うし 牛 島 武 士 (71)
藍 綬	大 阪 府	現 八尾市消防団 副団長	にし 西 野 仁 (60)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	たか 高 田 秋 美 (57)
藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	まえ 前 野 茂 (60)	藍 綬	福 岡 県	現 八女市黒木消防団 団長	かづ 主 計 俊 朗 (62)
藍 綬	大 阪 府	現 四條畷市消防団 副団長	まさ 枅 井 隆 也 (64)	藍 綬	福 岡 県	元 春日市消防団 団長	なが 永 田 信 雄 (58)
藍 綬	兵 庫 県	現 新温泉町消防団 団長	にし 西 岡 安 雄 (64)	藍 綬	福 岡 県	現 太宰府市消防団 団長	なか 中 村 辰 美 (59)
藍 綬	奈 良 県	現 安堵町消防団 分団長	いづい 乾 成 暢 (70)	藍 綬	福 岡 県	現 水巻町消防団 団長	はね 羽 地 遺 和 夫 (63)
藍 綬	奈 良 県	現 御所市消防団 副団長	つじ 辻 井 康 人 (62)	藍 綬	福 岡 県	現 遠賀町消防団 団長	みね 峯 俊 一 (61)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	佐 賀 県	現 有田町消防団 団長	ふじ 藤 とし 俊 信 (61)	藍 綬	千 葉 県	元 ㈲千葉県消防設備 協会 会長	きた 北 原 とし 俊 彦 (72)
藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 副団長	うち 内 だ 田 かつ 勝 成 (58)	藍 綬	石 川 県	現 ㈲石川県消防設備 協会 会長	よね 米 ざわ 澤 ひろし 寛 (59)
藍 綬	宮 崎 県	現 宮崎市消防団 分団長	くし 串 ま 間 かず 文 (61)	藍 綬	兵 庫 県	現 兵庫県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	やま 山 さき 崎 た み 子 (69)
藍 綬	宮 崎 県	現 綾町消防団 団長	し 清 みづ ち 道 雄 (67)	黄 綬	長 野 県	現 ㈲丸共ユニオン 代表取締役社長	お 小 ぐち 口 泰 史 (61)
黄 綬	福 井 県	現 紫光産業㈱ 代表取締役社長	たけ 竹 うち 内 清 志 (68)	黄 綬	東 京 都	現 ㈲渡辺武商店 代表取締役社長	わた 渡 なべ 邊 きよし 潔 (58)
黄 綬	北 海 道	現 ヤハラ消防設備㈱ 代表取締役	や 矢 はら 芳 蔵 (78)				



住警器Now! ～第11回・最終回～

婦人(女性)防火クラブによる地区全体世帯への設置促進 (愛媛県伊予市)

総務省消防庁 予防課

～イントロダクション～

- 居室数の多い家にとっては、住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の購入は大きな負担となっています。
- 今回は、湊町婦人防火クラブ会員が、けん引役となり地域住民の防火意識の底上げに始まり、全戸訪問を通じて「まずは1個から」と設置を促進している事例を紹介します。

(1) 地域・取組主体の概要

伊予市は、瀬戸内海の温暖な気候の影響を受ける比較的災害の少ない平野部にある。伊予市の人口指数を見ると、高齢化と女性の比率が高くなってきていることがいえる。このような中で、昭和57年10月、伊予市湊町婦人防火クラブが結成され、現在、役員は隊長以下10名で主に構成されている（2年任期）。湊町婦人防火クラブの活動地域はA、B、Cの3地区に分割されており、広報区湊町A区では、158人のクラブ員を擁している（1世帯1名のクラブ員）。

主な活動内容は以下のとおり。

- ・住警器設置促進運動における住警器の設置活動
- ・幹部クラブ員による住警器研修会
- ・各防火クラブ員による住警器研修会
- ・住警器設置促進パンフレットの作成
- ・救急講習会、救急法普及活動
- ・火災予防週間における防火防災教室の実施
- ・災害弱者の戸別訪問及び自力避難困難者の把握

(2) 共同購入の取組概要

湊町婦人防火クラブがけん引役となり、伊予消防等事務組合消防本部の指導の下で、自主防災組織の協力を受けながら、平成19年8月から21年8月の間、住民の防火意識向上と住警器の設置について意識啓発に尽力した。

取組主体	伊予市湊町婦人防火クラブ
人数等	役員10人、全158人
消防署等	伊予消防等事務組合消防本部
職員数	153人
地 域	愛媛県伊予市 湊町A区
人口／世帯数	3万9,493人／1万3,726世帯 地区内は402人／158世帯
キーワード	●広報・周知 (テレビ・ラジオ等、掲示物・配付物、説明会、アンケート・回覧、戸別訪問) ●共同購入 ●設置支援 ●設置確認 (戸別訪問、設置済ステッカー)

(普及期)

平成19年8月頃～
婦人(女性)防火クラブ員による住警器に関わる学習に始まり、地域住民への普及

工夫点

- ①湊町婦人防火クラブ員の学習
- ②「まずは住警器1個の取り付けから」の運動開始

(展開期)

平成20年1月～平成21年8月
全戸訪問による住警器の普及啓発及び実態調査

工夫点

- ③地域住民の防火意識の底上げ
- ④住宅用火災警報器個別台帳による管理
- ⑤自主防災組織と連携した住警器の設置

この結果、158世帯全部に1個以上の住警器が設置された（当初の目標である1世帯あたり1個の設置目標は100%達成）。

(3) 工夫点の紹介

工夫点①：湊町婦人防火クラブ員の学習

●実施内容

婦人(女性)防火クラブが、地域住民に住警器設置を啓発するためには、自らがその必要性と効果を理解し、地域住民に説明できる知識を習得することが必要との認識に立ち、消防本部及び住警器販売メーカーの協力を得

て知識を身につけた。

学習と並行して、住警器に関わるパンフレットを作成した。



婦人（女性）防火クラブの勉強会

●ポイント

婦人（女性）防火クラブ全員が専門知識を習得し、説明・普及できるノウハウを習得した。住警器の性能・特性を理解し、パンフレットを作成した。

工夫点②：「まずは住警器1個の取り付けから」の運動開始

●実施内容

湊町A地区を5地区に分割、分担し、ボランティア活動を楽しみながら住警器の設置を普及していくとの方針で、戸別訪問により意識啓発を進めた（各世帯初回の訪問で改正消防法の趣旨及び住警器の意義を説明）。

婦人（女性）防火クラブが住警器販売メーカーと交渉した結果、煙感知式を安価で共同購入できる運びとなった。しかしながら、1世帯が所要数全部を同時に設置するには負担が大きいことから、とりあえず1個を設置し、逐次増設していく方針で全世帯を戸別訪問しながら設置希望個数を取りまとめた。個別訪



戸別訪問



高齢者宅への取付支援

問に先立っては、区長から住民への事前通知を行い、円滑な戸別訪問を図った。

婦人（女性）防火クラブ員は、民生委員を兼ねていることから、高齢者等の世帯に対しては、災害時要援護者登録兼避難支援プラン登録に関わる説明を兼ねて住警器の設置についても希望を募った。

期間を通じて、158世帯が計174個を取り付けた（大半の世帯は1個。最大5個）。

耳の不自由な人（難聴の程度は不明）でも警報音が十分聞こえることを確認した。

●ポイント

経済的負担を考慮し段階的な設置を試みた。個別訪問の他に、各種の説明会を通じて住警器への理解を促進した。

工夫点③：地域住民の防火意識の底上げ

●実施内容

掲示板の回覧後、全世帯、初回の個別訪問を行った。住警器PRビデオ等を活用した説明会を年10回開くとともに、防災訓練や防災フェア等の機会も活用して普及促進を図った。その際、住警器の実演により警報音の効果についても紹介した。

説明会において防災記念品の配布や、防災フェアにおける非常食の配布など、参加者の関心を高めることに着意した。

NHKラジオ第1（四国ネット）においても湊町婦人防火クラブの住警器設置促進活動を取り上げたことから、地域住民の意識高揚に効果があった。

●ポイント

婦人（女性）防火クラブなど、ボランティア団体による説明会や、あらゆる機会を活用した積極的な普及活動を実施した。

工夫点④：住宅用火災警報器個別台帳による管理

●実施内容

158全世帯分の住警器の個別台帳を作成し、世帯ごとに取り付け日、設置個数、設置場所等を記載し、婦人防火クラブ員が管理している。

取り付け後、取り付け状況を实地に確認するととも



「自分たちの地域は自分たちで守る」を合い言葉に



嬭恋消防団 団長 下谷 宇一

1 嬭恋村の紹介

嬭恋村は群馬県の西北部に位置し、33.751km²の広大な土地を有する高原地帯です。村の外周には、浅間山・吾妻山（四阿山）・白根山などの標高2,000m級の山々が連なり日本の大分水嶺をなしています。

村の中央部を西から東に吾妻川が流れ、集落の大部分はこの流域に散在しています。キャベツをはじめとする高原野菜栽培の適地となっており、気候は夏でも涼しく、1日の温度差が大きいのが特徴です。特に気温・湿度は避暑に最適であり、浅間高原を一帯が大別荘地となっています。

このような大自然をバックに村名の由来から、日ごろ寡黙な男たちが1年に一度くらいは妻への感謝の言葉、愛の言葉を大声で叫んでみてもいいのではないかとこのことから、愛妻の丘にて、浅間山をバックに生産

量日本一のキャベツ畑に向かい「キャベツ畑の中心で愛を叫ぶ」と題したイベントを開催しています。日本の男性は妻を前にする「ありがとう」や「愛してる」などの言葉が出にくいとされています。皆様もぜひ一度おいでいただき愛を叫んでみてはいかがでしょうか。

2 消防団の沿革

昭和22年4月、消防組織法の制定に基づき、消防団設置条例が定められ、現在の嬭恋消防団が発足しました。（定員319名）。

現在は、団員275名（平成23年4月1日現在）11分団で活動を実施しています。各分団は行政区ごとに組織され、その地域に慣れ親しんでいるものが団員として活動することにより、速やかにきめ細かな対応ができると考えております。

団員確保が課題となっていますが、消防分団の維持はその地域のコミュニティ存続そのものであり、本村のような中山間地域では非常に重要なことでありますので、今後も引き続き、地域と一体となって団員確保に努めてまいりたいと考えています。

3 消防団の活動状況

消防団の活動としましては、火災をはじめ台風等の風水害、近年増加してきた集中



キャベチュー2009

豪雨等による局地的な水害・土砂災害、浅間山の噴火に対する対応、遭難者の搜索等々、多岐にわたる活動を関係機関と協力し実施しています。

特にここ数年の局地的な集中豪雨による内水の氾濫等は、時間との戦いであり、迅速な情報収集と予測される災害への的確な対応の重要性を痛感させられています。今後さらに多くなると予想されるこのような災害に対する対応を、しっかりと考えていかなければならないと実感しています。

また、ここ数年の新たな取り組みとして、浅間山の噴火を想定した防災訓練を実施しています。

2004年9月、浅間山が21年ぶりに噴火し、噴火による直接的被害はほとんどなかったものの、その噴火時の爆発音（空震）によって受けた衝撃は、地元で生まれ育った私どもとは違い、噴火経験を持たない都会からの移住者や別荘滞在者、観光業従事者の方々にとっては、非常に大きなものであったようです。

これらの事をふまえ、山の麓に広がる浅間高原地域における別荘地域居住者、季節滞在者の方々が、安心して過ごしていただくためには、防災対策が不可欠であるとし、



別荘地域住民への広報活動



現地対策本部で安否確認を行う消防団本部（訓練）

平成17年から防災訓練を実施しています。

訓練内容は、分団ごとに別荘地域の担当区域を決めて、広報活動及び定住者の安否確認ですが、この訓練実施により、普段分かりにくい別荘地域の住民の状況、水利等の状況が確認できたことは、消防活動にとっても大きな収穫でありました。

4 おわりに

平成23年3月11日、大きな被害・被害者を出した東日本大震災が発生しました。「復興へ向けて」と言葉で言うのは簡単ですが、その道のりはいまだ先が見えない状況にあります。

今後、地球環境の変化により想定を超える大きな災害が発生する事が懸念されます。

我々消防団が対応すべき災害は、さらに複雑、多様化していきますが、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということを基本とする、地域に根差した地道な活動が、地域を守り元気にしていくことにつながることを確信し、今後も消防団活動のさらなる充実を図っていきたいと考えています。



未来に^{つむ}ぐ上田消防の 「火消し魂」



上田市消防団 団長 和田 道明

江戸火消、加賀鳶と並び、上田消防は日本三消防の一つと称されています。真田昌幸が築いた上田城と城下町で育まれてきた歴史と伝統に息づく、上田市消防団を御紹介します。

1 上田市の紹介

長野県の東に位置する上田市は、東京から約190km、長野新幹線で最短72分の距離にあります。人口約16万人、面積約552km²、中央に日本最長の千曲川が流れ、菅平、美ヶ原の雄大な二つの高原に囲まれた歴史と文化のまちです。戦国時代、その名を全国に轟かせた真田氏によって平城・上田城が築城され、幕末まで城主が幕府の老中を務めるなど歴史にその名を刻み、真田昌幸の子、智将・真田幸村は、400年の時空を超えてもなお上田市民



救護隊による救急救命講習会

の誇りであり英雄であります。

2 消防団の概要

平成18年3月、新上田市発足後、消防団も4月に結団式を行い消防団員数2,490名（定数）の新上田市消防団が発足しました。現在、1本部、8方面隊、29分団、音楽隊、ラッパ隊、救護隊、ペナテス隊、バイク隊で構成されており、消防車両は指揮車6台、搬送車1台、ポンプ車20台、普通積載車29台、軽積載車65台、照明車1台、バイク10台（内赤バイ6台）を配備しています。

3 消防団の活動

(1) 上田市消防出初式

1月の第3日曜日に開催される「出初式」は、伝統技能として火消し太鼓、消防木遣り唄、梯子乗り、ラッパ隊ドリル演奏を披露し、団員や市民約2,200人と消防関係車両約120台により海野町商店街で分列行進が行われます。市中を貫く行進は消防団の絆を深めるまさに「紅の結束」であり圧巻の光景といえるでしょう。



出初式中を彩る「紅の結束」

(2) ポンプ操法大会

6月末に行われるポンプ操法上田大会は、日々の訓練の成果を発揮し全チームが上位大会を目指し競い合います。選手の技術、士気は高く、地元自治会や家族の熱い応援をいただき熾烈な戦いを繰り広げます。当消防団ではこれまで県大会を勝ち抜き、全国大会においてポンプ車の部優勝1回、準優勝1回。小型ポンプの部では準優勝4回の成績を取ってきました。

(3) 各隊の紹介

「音楽隊」は、昭和48年に発足し現在44名で活動しております。年1回の定期演奏会、市内各地で開催される出前演奏会、姉妹都市の鎌倉シティプラスとの交流演奏会など、市民への予防消防を軽快なメロディーに乗せてPRしています。

「ラッパ隊」は、出初式等式典での吹奏を始め年間を通じて訓練を行い、各分団からの選抜メンバー「赤房（あかぶさ）」は、県大会での優勝目指し吹奏技術と音色を日々磨いております。

「救護隊」は、分団から選任された救護隊員で構成されています。普通・上級救命講習会を年間で開催とともに、普及員「アレックス」の育成を推進しています。

平成5年、女性消防隊として発足した「ペナテス」は、現在、各分団に所属しており、通常は火災や災害等有事の際に男性団員と共に活躍しています。救護隊普及員資格の積極的取得や、ポンプ操法訓練の実施、ラッパ隊への参加など、女性登用の推進と共に活躍の幅が広がっています。

平成8年に全国に先駆けて結成された「バイク隊」は、現在は正副バイク隊長含む約200名の団員で活動しています。主に山林火災での偵察や行方不明者の搜索に威力を発揮します。自動車教習所での走行技術訓練や長距離走行訓練で運転技術の向上に努めています。

消防団活動を地域住民へ理解してもらうため、現在、全ての分団が定期的に広報紙を発行し活動をPRしています。出初式では各分団・各隊を紹介するポスターの作成・展示、公式ホームページによる分団紹介など、各分団から選任された広報部員を集め、「広報部会」として活動しています。



バイク隊（赤バイ）



音楽隊定期演奏会

3 おわりに

予防広報活動を実践していく上で、各分団では年間を通じ独自の取り組みを行っています。分団主催の防災イベントは、消防車乗車体験、放水体験など地域住民が直接消防団活動を体感できる機会であり、特に、子どもたちには大変好評です。訓練や会議等で年間出勤回数が300回を超える分団もあります。

上田市消防団は、基本方針を掲げ、自発的な参加、心・技・体の研鑽、常に地域と共に歩む姿勢を理念に自ら立案した活動計画に取り組んでいます。

現在、少子高齢化社会や若者の地域転出が進み団員不足が深刻な状況ですが、各分団の個性を活かした地域とのコミュニケーションを継続することで、愛する地域を守る消防人の勇姿と心意気の「火消し魂」を、今後も地域の子どもたちに^{つむ}ぎ努力を重ねてまいります。

上田市消防団公式ホームページ

<http://www.city.ueda.nagano.jp/pc/shoboudan/index.html>



「笑顔あふれるわが町を 守る消防団」



おいらせ町消防団 団長 立花 國雄

1 おいらせ町の紹介

おいらせ町は、平成18年3月1日に百石町・下田町の2町が合併して誕生した人口約2万5千人の新しい町です。

おいらせ町は、太平洋を望む青森県南東部に位置し、西は六戸町、南は八戸市、五戸町、北は三沢市と接しています。また、町内を十和田湖を源流として太平洋に注ぐ奥入瀬川が流れています。気候は、夏には偏東風と呼ばれる太平洋からの冷たい風が吹き、冬には気温は低いものの降雪量は少なく、青森県内でも最も雪が少ない地域となっています。



津波襲来時



津波翌日

2 消防団の概要

平成18年3月に百石町・下田町が合併したことにより、1町2消防団体制を経て、平成22年4月、おいらせ町消防団として発足しました。現在は、本団及び19分団、団員数338名（条例定数400名）で構成されており、水槽付ポンプ車5台、普通ポンプ車13台、小型



女性消防団交流会

動力ポンプ積載車1台、広報車2台を配備しています。また、19分団のうち「百石第10分団」は女性だけで構成されており、現在は、16名の女性団員が活動しています。

各団員に対する情報伝達の円滑化を図るため、従来の防災行政無線放送に加え、平成21年度には、全戸へ個別受信機を設置し、平成22年12月より、八戸市安心・安全情報システム「ほっとスルメール」を利用した火災情報

等の一斉配信を行なうなど迅速な情報伝達に努めています。

3 消防団の活動

現在のおいらせ町消防団の活動を紹介しますと、出初式（1月）、新入団員基礎訓練（4月）、春・秋の火災予防運動（4月・10月、防火パレードや中継送水訓練）、普通救命講習（8月）などが挙げられます。

昨年11月には、各分団幹部を対象に消防団危険予知訓練を実施し、団員の安全確保について改めて確認しました。

また女性分団では、今年2月に近隣市町の女性消防団員と合同で研修会を開催し、防災士の講話や災害対応ゲーム教材「クロスロード」を使ったゲームなど研修を行ないました。

4 東日本大震災での消防団活動

平成23年3月11日14時46分に発生した「東北地方太平洋沖地震」では、おいらせ町では最大震度5強を観測し、4分後には「津波警報（大津波）」が発表されました。当町消防団も町役場本庁舎に活動本部を設置し、屯所に非常参集した各分団に対し、沿岸部の分団には直ちに避難勧告（その後避難指示に切り替え）の広報を実施し、それ以外の分団は管轄区域の被災状況を確認するよう指示しました。

沿岸部においては、15時40分過ぎから、7mを超える津波に襲われ、住家被害全壊26棟、大規模半壊15棟をはじめ、漁船流出や農地冠水などの農林水産業施設の被害、工業団地の建物・設備や従業員車両の浸水などの被害が発生しましたが、人的被害は負傷者3名と軽微で、火災が発生しなかったことは幸いでした。

その後も続く余震に対し、各消防屯所や避難所での警戒にあたり、13日早朝には、津波注意報への切り替えに伴い、避難勧告も解除されたため、町消防団は被災地域の道路の障



津波後の道路啓開作業



新入団員訓練

害物除去作業を行い、3日間、延べ人員599名の活動を終了しました。

5 おわりに

今回の震災では、当町消防団員も津波により家屋等が被害を受けましたが、岩手・宮城・福島各県の消防団員が受けた被害を思いますと、大変切ないのを感じます。現在、被災地区の復興も徐々に始まってきているところですが、防潮堤や防潮水門が破損したままとなっています。様々な課題を克服し、今後も町民の財産と生命を守るために活動していきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の震災では、（財）日本消防協会をはじめ、全国の消防団の皆様から多大なご支援ご協力を賜りましたことに感謝と御礼を申し上げます。



工都「日立」の 安全・安心のために



日立市消防団 団長 今橋 松男

1 日立市の紹介

日立市の「日立」という地名の由来は、テレビのドラマでも有名な「水戸黄門」こと水戸藩二代藩主・徳川光圀公が元禄8年当地を訪れた際、「日の立ち昇るところ領内一」と称えられたという故事から由来すると言われております。

日立市は、茨城県の北東部に位置し、首都東京へ約150km、県都水戸市へは約32kmの距離にあります。

東は太平洋に面して南北約28kmの海岸線を有し、北西部は阿武隈山地の支脈である多賀山地が連なり、市内の3分の2を覆っており、南は久慈川をはさんで日本の原子力の誕生地、東海村と接しております。気候は年平均14度で比較的温暖であります。

当市は、日立製作所を始め、日立電線、JX日鉱日石金属など、機械製造業などが基幹産業であります。また、北関東の海の玄関として茨城港日立港区を有しております。

また、市内には主要交通網として、JR常磐線、国道6号、国道245号、常磐自動車道が海岸線にほぼ並行して通っております。常磐自動車道のインターチェンジが南、中央、北と市内に3か所あり、全国的高速道路網へとつながっております。

震災後には、未来に向けての日立市の発展を期するため、「活力あるひたちへの再生」

を目指し、「安心できる社会づくり」と「次世代への道づくり」推進のため市民一丸となって取り組んでいるところです。

2 日立市消防団の現況

日立市消防団の歴史は、昭和14年9月に警防団として13分団1,200名で編成され、昭和23年4月には、消防組織法の制定により団条例を改正し、8分団120名で日立市消防団が誕生しました。その後相次ぐ合併を経て平成23年4月現在で27分団381名の陣容で地域の守りに就いております。

当市において他の都市と同様に団員確保については、苦慮しているところであります。就業構造の変化に伴う団員のサラリーマン化あるいは人口の減少により団員の希望者が少なく、団員平均年齢も45歳と若干高めを推移していることから、若い入団者の募集に全力を挙げて取り組んでいるところであります。

保有する車両などの装備は、普通消防ポンプ自動車12台、小型動力ポンプ積載車18台を配備しております。

3 日立市消防団の活動

災害による被害を最小限に食い止めるためには、消防の行う役割に加え、住民の一人ひとりの自主防災の実践とともに、「地



(トリアージ訓練に参加)

域ぐるみ」の防災活動が最も重要と考えております。

日立市は早くから、各地域の防災活動の中心となる自主防災組織や婦人防火クラブの組織化がすすめられ、現在は市内全学区に自主防災組織や女性防火クラブが結成されております。

このような中であって消防団の活動では、地域の防火防災活動、救急教室への協力、林野火災消防演習や多数傷病者対応のトリアージ訓練など計画的に事業として活動を進めているところであります。

また団員間の親睦を図るためのソフトボール大会や団員の技術や知識の向上のための研修会を実施し、団結力及び士気高揚に



(河原子海岸に押し寄せる大津波)

努めているところであります。

当市の災害としては、平成3年に270haの山林を焼失した林野火災やこの度の東日本大震災が挙げられます。

大震災では、団員自身も被災し避難所生活が続ける中での苦しい活動でありましたが、一人の犠牲者も出すこともなく終息したことに大きな安堵感を抱いたところであります。まずは、

停電となった市内全域において消防の命である防火水槽の点検を消防本部とともに実施し、その後地域の避難所での支援活動に奔走し、照明作業、炊き出し、お年寄りへの介添えなど地道な活動に移って行ったところであります。地域住民が避難所から帰宅する際、多くの市民から感謝の言葉を掛けられ、団員それぞれが大きな励みとなり消防団の使命感をさらに強くしていったことと思っております。

4 おわりに

この度の震災にあっては、東北地方での犠牲者の中に多くの消防団員や消防職員が活動中に亡くなりました。我々日立市消防団は、消防という大きな絆をもつ仲間として心からご冥福をお祈り申し上げます。これまでも私たちは、数多くの災害に立ち向かって乗り越えてきました。越えられないものはないと思います。

目の前に問題は山積みではありますが、「消防団は地域の防火の要、地域の奉仕者であれ」を合言葉に、消防本部とともに協働で「安全・安心のまちづくり」の推進に心血を注いでいきたいと思っております。



写真左から坂内さん・波部さん・高橋さん

シンフォニー（福島県） 「私たち女性団員だから 出来る事を一歩ずつ…」

会津若松市消防団 団員
坂内 牧子

福島県会津若松市は、多くの歴史が残る城下町として、鶴ヶ城や白虎隊で有名な飯盛山など県内でも指折りの観光地であります。

人口12万6千人、四方を山に囲まれた盆地であり、寒冷な冬と湿潤な夏という、盆地特有の気候風土と重畳たる周囲の山々からの清冽な伏流水に恵まれた会津は良質な米を生産し、その米を使用して醸した日本酒は絶妙です。

会津若松市消防団に女性消防団員が誕生したのは、平成15年4月1日。当時は13の分団の中に女性団員は5名でしたが、現在は北会津村と河東町との市町村合併で19の分団になり、消防団員1380名の中女性団員は8名になりました。

私は第4分団に所属しています。「地域での男女共同参画が、これからは重要である！」と前々分団長の小林さんから熱心なお誘いを頂いたのが入団のきっかけでした。その時に一緒に入団したのが高橋広美（現在第4分団班長）さんです。

まだ何をどうしたらいいのかわからない頃に行動を共にした広美さん（とても明るい性格の人です！）の存在は、私にとってとても心強いものがあり、随分助けられま

した。

会津若松市から防火衣や活動服・半長靴等を支給された時は、『本当に消防団員になったんだなー。』と、実感しました。

初めての火災出動の時は、何をしていたのかわからず、見ていることしかできませんでした。ましてや、先輩団員の手際の良い消火活動を目の当たりにして、『本当に私にもできるのかしら？』という不安にかられたのを思い出します。

春の検閲が終わると、真夏に行われる【会津若松市消防操法大会】に向けての訓練が各分団ごとに始まります。

消防として重要な職務である火災の時に、どれだけ早く消火できるかを競う大会です。

選手の皆さんの汗まみれの訓練に感心しながら、広美さんと私もライン引きや、ホース巻の応援に汗を流しました。

その数年後に、男性団員に混ざって自動車ポンプの部の4番員として競技大会に出場するとは、夢にも思っていませんでした。

練習期間に専任コーチを2人も付いていただいたのですが、私の物覚えの悪さに悪戦苦闘されたようです。（汗）

他の選手の皆さんも、自分の練習そっちのけで私に協力してくれているのに、一動

作教われれば前の動作を忘れてしまうということの繰り返し……頭がパニックになってしまいました。

コーチや他の選手に迷惑をかけながらの訓練がとても辛くて、訓練場で思わず泣いてしまった日もありました。

大会当日は、会津若松市の競技場に初めて女性団員が出場するというので、周りには大勢の人が集まりました。

いよいよ本番。

「4番員 坂内牧子！」の場内アナウンスが流れた直後、会場は静まりかえり、私の緊張は最高潮に達しました。

雰囲気のにまれないように集中しようと試みたのですが……。

「操法開始!!!」

と、白旗が振られて、その後の記憶は空白です。

終わった後の会場の皆さんの拍手と分団長はじめ、分団員達の笑顔に迎えられた時は、正直ホッとしたのを覚えています。

結果は、19分団中惜しくも1点差で第4位でした。

平成16年には、全国女性消防団員活性化山形大会に参加させていただきました。

日本全国で、こんなに女性消防団員が活躍しているんだなぁと改めて感じました。その時同行したのが、第3分団の加藤ゆかりさん、前述の広美さん、第10分団の佐藤美穂さんです。検閲等の行事がないと、なかなか会えなかったのが、仲良くなれる良い機会になりました。



その後嬉しいことに、当時私の班の渡部班長の娘さん、渡部千裕さんが入団してくれました。これで第4分団に女性が3名。

【女3人寄ったら何とやら……】の如く、とても賑やかになりました。

現在私は第4分団の機関員として頑張っています。消防本部から出動指令が受信機やメールに入ると、直ちに出動します。

今では4分団のポンプ車の運転も任されているんですよ。

有事以外では出初め式や、春・秋の検閲等々にも参加します。また、火災予防の広報活動にも積極的に参加しています。ポンプ車で管内を巡回して、マイクを使い火災予防の呼び掛けをしています。そのかいあってか、3月11日の大地震の時も、会津若松市内で火災は1件も発生しませんでした。

消防団は、昼夜を問わず有事があれば出動する地域に欠かせない集団です。私もその一員である事に誇りをもっています。

これからも私にできることを一歩ずつやっていきたいと思います。

全国の女性消防団員の皆さん一緒にがんばりましょう!!!

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.39 たつの少年消防クラブ（兵庫県たつの市） 防火救命活動の担い手

たつの市消防本部警防課 消防司令 桑名 一博

少年消防クラブの定例的な活動に加え、青少年（中学生・高校生の希望者）を対象にした『防火救命リーダー育成講座』を実施しました。たつの署管内では、8月17～19日に女性2名を含む7名が、また、太子署管内では、8月11～12日に8名が未来を担う若きリーダー候補生として参加しました。

リーダー候補生は、消火・救助体験、普通救命講習、DIG、避難所体験及び管外学

習を体験し、特に、炎天下でのロープ登はん訓練では、ロープと格闘し熱い汗を流していました。自らが参加しようという生徒だけあって、担当職員を圧倒するくらいの迫力で何事にも積極的で各訓練に取り組み、その姿は真剣そのものでした。

この講座を通じて、災害に対する確かな知識と対応力を身につけ、将来の地域自主防災のリーダーとしての資質を高めてくれたものと考えています。



消防本部車庫にて



兵庫県消防防災航空隊にて



兵庫県消防防災航空隊にて



兵庫県消防学校にて

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.40 豊島消防少年団（東京都豊島区） 「区総合防災訓練に参加」

豊島消防少年団 団長 小島 二郎

私たち豊島消防少年団は、平成22年8月29日（日）区立千登世橋中学校において実施された「豊島区総合防災訓練」に参加しました。今回の防災訓練は、8月30日から9月5日まで実施される防災週間に前に、町会を中心とした地域住民と消防署、区役所、警察署などの関係機関等により実施されたものです。避難訓練や応急救護訓練など、様々な訓練が行われましたが、豊島消防少年団は、「物資調達訓練」と「消火訓練」に参加しました。

物資調達訓練を実施したのは、小学2年生から6年生の団員25名です。近隣の事業所からトラックで調達された飲料水を、バケツリレーでポリタンクに運ぶという訓練でした。炎天下の中、バケツに入った水を運ぶのは大変でしたが、災害のときに水がどれほど貴重なものかということを、身を持って体験することができました。

一方、中学生団員はD級可搬ポンプによる消火訓練を実施しました。少年消防クラ



ブの活動服を着用しての放水訓練でしたが、その姿は日頃着用している制服とはまた違い、よりたくましく見えました。実際に活動服を着用した団員は、「いつもの制服より活動しやすいけど、暑い日は大変だ。」「この活動服とおそろいのヘルメットがあったらいいな。」などの声が上がっていました。

防災訓練は中学生団員と豊島消防団の一斉放水で幕を閉じ、その姿に地域の皆様から拍手が沸き起こっていました。



9月1日は防災の日

防災訓練に参加しましょう

～災害に備え、防災知識の向上をめざす～

応急対策室

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、平成23年6月23日現在で死者・行方不明者が2万2千人を超え、16年前の阪神・淡路大震災を大きく上回る戦後最悪の自然災害となり、地震発生から4ヶ月を経過した今でも被害の全容は明らかとなっていません。

また、我が国では台風、集中豪雨などの自然災害も毎年のように発生し、各地で多くの被害が出ています。

さらに、東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震という大規模地震の切迫性が指摘されています。

このような状況の下、被害を最小限に抑えるためには、国民一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけ、いざというときに落ち着いて的確な行動をとることが重要であり、そのためにも、各地方公共団体、企業、地域コミュニティなどで行われる防災訓練に積極的に参加することが望まれます。

防災訓練では、情報の収集伝達、避難・誘導、初期消火、応急救護、地震体験など

実践的な対応を経験することにより、一人ひとりが災害発生時の対応策を身につけることができます。また、いつ起きるかわからない地震・津波災害などに対する備えは、常日ごろから防災意識を持って生活することや防災訓練の体験などによって培われるものといえます。

国や地方公共団体では、毎年9月1日の「防災の日」及び8月30日から9月5日までの「防災週間」を中心に防災訓練を行いますので、積極的に参加し、防災行動力を身につけましょう。

*防災訓練の日程は地域によって異なりますので、詳細はお住まいの地方公共団体にお問い合わせください。

地域で行われる防災訓練へは、自分の住んでいる地域の方々と共に“いざという時どうするか”という心構えで参加体験し、家族みんなで防災について話し合しましょう。

〈いざというときの備え確認チェック?☑〉

- ☐ 非常持ち出し品の準備、避難場所までの順路など、避難するときの確認事項
 - ・次の物はすぐに持ち出せるように用意しましょう。
現金、救急箱、懐中電灯、ライター、電池、毛布、食品、飲料水、ラジオなど
- ☐ 消火器の正しい使い方などの習得、冷静に火災を防ぐこと
 - ・消火器は初期消火に有効なので正しい使い方を覚えましょう。
- ☐ 正しい情報の入手方法と家族や近隣の人の安否情報を確認する方法
 - ・携帯電話、インターネット、ラジオ、防災行政無線などで正しい情報を入手しましょう。
 - ・毎月1日・15日や防災週間などで災害伝言ダイヤル（171）が体験利用できるので、使い方を確認して、いざというときに大切な人の安否情報が確認できるようにしましょう。
- ☐ 軽いけがの処置など、協力して行う応急救護の方法
 - ・消防署などで行う救命講習会では、軽いけがの処置をはじめ心肺蘇生法について習得できますので、進んで参加しましょう。
- ☐ 地域住民等で協力して行う救出活動の方法
 - ・大規模な災害時には消防車や救急車が直ぐに救出に向かえない場合もあるため、バール、のこぎり、自動車のジャッキなどを使用し瓦礫下から救出するなど地域の方々の協力が必要です。
- ☐ 避難前の安全確認
 - ・停電から復旧した時に通電火災を防ぐため、電気のブレーカーを切りましょう。
 - ・ガス漏れによる火災を防ぐため、ガスの元栓を閉めましょう。
- ☐ 家具の転倒防止など、自分たちで事前に備えとしてできることの確認
 - ・自分の身は自分で守る、自分たちのまちは自分たちで守る、という意識を持って生活しましょう。

総務省消防庁 生活密着情報 「地震などの災害に備えて～地震に自信を～」をぜひ参考にしてください。
〈リンク先〉 <http://www.fdma.go.jp/html/life/jisin2jisin.html>

○ 映画「ふるさとがえり」公開について

このたび、消防団を題材にした映画「ふるさとがえり」が、恵那市消防団も協力して完成し、公開されることとなりました。上映にあたります映画「ふるさとがえり」地域上映会事務局からこの映画を紹介する文章が寄せられましたので掲載いたします。

映画「ふるさとがえり」 ニッポン中へ届けよう！

～全国の消防団員・団員のご家族へ捧げる物語～

映画「ふるさとがえり」地域上映会事務局

■消防団を描く映画が誕生！

6月27日と7月1日の二日間、北とぴあ（東京都北区）で「映画『ふるさとがえり』全国へのキックオフフォーラム上映会」が開催。消防団を通じて地域の絆を描くヒューマンドラマに、800名を越えた観客が大きな感動に包まれました。「ふるさとがえり」は海外映画祭でも受賞歴を持ち、注目を集める新人監督・林弘樹氏の最新作。上映会の舞台挨拶で林監督は「この映画を通じて、消防団への理解と共感の輪が広がって欲しい。日々、消防団員を支えているご家族の方々にもお届けしたい物語です」と、本作品への想いを語りました。また脚本家の栗山宗大氏は「地域社会の課題を取材する中で、消防団というモチーフに出会った。様々な葛藤を持ちながらも活動している消防団員の方が多い。消防団の苦悩を描くことによって、現在の日本社会が抱える問題も見えてくる」と、消防団の社会的意義についても訴えました。

■全国各地で地域自主上映会を！

「ふるさとがえり」は今年秋の劇場公開だけではなく、自治体や地域づくり団体などによる自主上映会（地域ロードショー）で全国へと届けられる作品です。口コミなどによって話題が広



がり、7月からスタートする地域ロードショーには、多くの上映会開催依頼が押し寄せています。総務省消防庁、日本消防協会でも本作品を後援し、広報支援を予定。消防団活動への理解促進や、団員獲得キャンペーンの為の上映会を希望する方は、次項の事務局までご連絡をお願いします。

監督：林 弘樹 脚本：栗山宗大 企画：えな「心の合併プロジェクト」／FireWorks

協力：恵那市／岐阜県／恵那ふるさと映画支援の会

後援：総務省消防庁（助）日本消防協会

出演：渋谷譲二 佐藤仁美 笑福亭鶴光 斎藤洋介 村田雄浩 高畑淳子など

©2011 FireWorks／NAKED INC.／恵那ふるさと映画制作実行委員会



映画「ふるさとがえり」地域上映会事務局（ものがたり法人 FireWorks内）

TEL：03-3900-4836 mail：info@fireworks-film.com

114-0034 東京都北区十条仲原2-2-4-202

ものがたり法人FireWorks <http://www.fireworks-film.com/>

映画「ふるさとがえり」公式サイト <http://www.hurusatogaeri.com/>

うちの

名物団員



福岡県

大野城市消防団 団長

藤田 正美



全国操法大会で準優勝するなど伝統ある大野城市消防団の団長ですが、もう一つの顔があります。それは、少年硬式野球チーム「大野城ガッツ」(中学部)の監督です。教え子は、監督の地獄のノック(!?)に鍛えられ、プロ野球や甲子園など全国区で活躍しています。(ソフトバンクの杉内投手、本多外野手など)

これからも、名監督として消防団の指導をよろしくお願いします。

大阪府

東大阪市消防団 女性消防団員

加茂 安希子

加茂 有希子



左から加茂安希子・加茂有希子

東大阪市女性消防団員の双子のスプリンター！加茂有希子団員、加茂安希子団員を紹介いたします。

お二人は陸上選手だった御両親の影響を受け、励まし合いながら競技生活を続け、大学時代には日本インカレや、岡山国体など数々の大会に出場し、活躍されてこられました。

現在、他の女性団員の方々と共に陸上競技で培った体力を活かし、また女性ならではのきめ細やかな市民への救命講習指導や、防火防災意識の普及啓発を目的とした広報などの消防団活動を行っており、今後も地域防災の担い手として、姉妹の更なる活躍が期待されます。

茨城県

阿見町消防団 副団長

遠藤 貴央



阿見町消防団の遠藤副団長を紹介いたします。

副団長は、消防ポンプ操法の指導に心血を注ぎ、全国消防操法大会、全国女性消防操法大会へに出場を果たすなど、その手腕は広く団員から信頼されています。

また、女性消防団員の育成にも尽力し、永年消防団員として培った経験を基にアドバイスを行ったり、本団が全国に先駆け実施しているアメリカ式幼児防火教室では、本職である建具職人の腕を生かし、使用する組み立て式の小道具類を作成するなど女性団員の活動を支援しています。

現在独身、花嫁募集中です。全国の女性消防団員の皆さん、よろしくお願いします。(阿見でお待ちしております)



三重県亀山市消防団 団長

葛西 行弘

昭和27年に入団し、以後58年に亘り地域の安全・安心のために尽力してこられた葛西団長。その長年の経験に裏付けられた災害現場での陣頭指揮や先見性に満ち溢れた洞察力は、部下411名の目標とするところです。また、温厚

な葛西団長には、団員のみならず多方面から様々な相談・要望が寄せられますが、全てに分け隔てなく真摯に対応する姿は、団員以外にも多くの支持者を集めています。

再来年の入団60周年の節目に向けて、年齢を感じさせないばかりか、その行動力に益々磨きがかかっています。



上田市消防団菅平分団 団員

磯崎 敦

菅平高原は日本でも有数のスキー場。シーズン中は日本全国から多くのスキーヤー、スノーボーダーで賑わいます。磯崎団員は学生時代、スノーボードのトップアスリートとして国内大会を始め多くの大会で活躍し、日本代表選手として世界大会にも出場したことがあります。現在は、菅平高原で定食屋「ちょっと屋」店長として美味しいコロッケを提供しています。現在、分団ではラッパ手として活躍。ラッパ吹奏上田大会へ向け、日々訓練に励んでいます。



会津若松市消防団 団本部副団長

福島 啓嗣

福島副団長さんは、会津若松市で自動車整備会社の社長をされている傍ら、会津若松市消防団の総務も担当しています。

何事にも一途で一生懸命な福島さんは、団員のみならず地域住民からも絶大な信頼を寄せられています。

まさに会津若松市消防団の縁の下の力持ち!! なくてはならない存在です。



青森県おいらせ町消防団 百石第1分団 団員

小向 光洋

おいらせ町消防団で活躍している小向さんは、消防団活動だけではなく、秋には地元の祭りなど、地域活動に積極的に取り組む姿を見かけます。また、子どもの入学を機に、自発的に自宅近くの信号のない交差点に立って、毎朝通学中の児童に声をかけながら、子供たちの安全を見守っています。

今年4月から地元小学校PTA会長にも就任した小向団員は、消防団員や学校関係者からも人望が厚く、地域に大きく貢献している団員です。

津市消防団芸濃方面団
ささゆり分団
分団長

松谷 トシ子



あの時の喜びと感動は忘れません！

今から10年前に開催されました第15回全国女性消防操法大会に出場した時のことです。

当時の私は、町の婦人消防隊として活動し、年齢は57歳でした。(笑)

地元の皆さんからは応援の甲斐がないと言われたくらい、チームメンバーも年が入っており、全出場隊の中でも最も平均年齢が高いチームであったと思います。

そんなチームでしたが指導をいただいた消防署員や消防団員、そして地元の皆さんの御支援と御協力のお陰で、47チーム中12位という入賞を果たすことができました。

現在、私は女性分団の分団長を務めていますが、「あの時の喜びと感動」「皆さんからの温かい声援」「身に付いた体力と志」が背中

を押してくれて、今の私のやる気につながっています。

私を含めた女性消防団員の仲間も「私達の住んでいる町は私達で良くしていきたい」という気持ちがだんだん強くなってきており、男性消防団員達に負けないうくらい積極的に様々な訓練に参加し、1つ1つの訓練を真剣に取り組み、メンバー11名の心がひとつにつながってきていることを実感しています。

訓練以外には、幼稚園や保育園を対象に、園児たちに火の怖さを教えようと団員手作りの台本による人形劇の防火啓発活動を行ったり、東日本大震災で被災された方々の様子を拝見し、バスタオル等で作る防災頭巾づくりを地域の人たちに伝え、東海・東南海・南海地震に備えてもらおうと新たな活動に取り組んでいます。

東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈りすると共に、一日でも早い復興を願いながら、私が住む芸濃町のために、今後も大勢の方々と共に協力しながら頑張っていきたいと思っています。



平成23年度 全国統一防火標語

消したはず 決めつけしないで もう一度

編集後記

連日のうだる猛暑の中、逼迫する電力需要を脱みつつ、ご家庭で、職場で身を削るような節電が続く今夏ですが、皆様いかがお過ごしのことでしょう。

酷暑の毎日にせめて、爽やかな一陣のそよ風をお届けしたいと願い、盛夏7月号をお送り致します。

今回は消防関係の叙勲・褒章受章者の皆様のご紹介を。何よりも今回の受章はご本人様はもとより、奥様をはじめご家族皆様の内助の功があったればこそ、と拝察致し、ご家族の皆様お一人お一人にまずは、受章、心よりおめでとうございます。また受章はゴールではなく、今後も地域防災のリーダーとして後進の指導に尽力頂きたいという思いの現れと捉え、皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

また岐阜県美濃加茂市消防団からは、活動事例「消防団競練会」をお寄せ頂きました。予期せぬ不具合や間違いが発生したとき、臨機応変に対応することが、実際の災害現場で高い能力を発揮できるものと、障害物の種類や位置などの想定を毎年変え、団員も災害発生と同じ、ぶっつけ本番で臨むこと、型に嵌まらないゲーム的要素が若い団員の興味とやる気を高めたことなどを今回の報告で知りました。本訓練事例をご自身の訓練の参考にして頂き、尚一層活動に精進されることを心よりお祈り申し上げます。暑さ厳しき折柄、くれぐれもご自愛のほど、せつに。

(T・M)

購読募集

購読を希望される方は、財団法人日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料（送料込） 2,388円

（問合せ先） 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十四巻第七号
平成二十三年七月五日印刷
平成二十三年七月十日発行

編集人 岩田知也
発行所 財団法人日本消防協会
東京都港区虎ノ門二丁目九番十六
電話 〇三（三〇三）二四八一（代）

印刷所
東京都千代田区外神田六三三
日本印刷株式会社
電話（三〇三）六九七一（代）

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

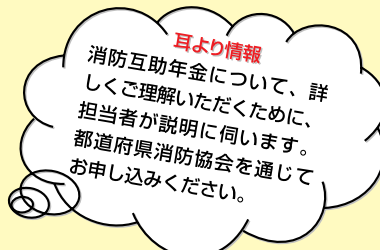
『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



『互助マル君』



耳より情報

消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>